教育ボランティア ガイダンスブック 2024

教育ボランティアによる見方考え方の成長

教育学部長・大学院教育学研究科長　服部 一秀

本学部における教育ボランティアの活動は、約 20 年前に放課後の学習支援としてスタートしました。以来、その活動の内容は拡大・深化してきています。今や、教科学習の支援は放課後だけでなく、授業時にも及んでいます。学校行事や部活動など、教科外や課外の指導補助にまで活動の幅は広がっています。障害のある児童・生徒の支援、不登校の児童・生徒の支援など、多様なニーズにこたえようとするものともなっています。教育ボランティア学生運営委員会により、学生主体の運営が図られていることも、大きな特色です。

教職を志す学生諸君にとって、このような教育ボランティア活動は、絶好の学びの機会です。短期的な教育実習とは異なり、長期的に学校教育の現場に触れられます。学校の教育活動を支えるとともに、内側から観察することもできます。児童・生徒、学びや育ち、教員や教職、指導、さらには、授業、カリキュラム、学級、学校、教育などに関する自らの既有の見方考え方を省み、それらを成長させるためのチャンスとして、ぜひ生かしてほしいと願っています。これらの見方考え方こそ、教員としての日々の教育実践をその根幹となって支えるものです。その時々の教育界の流行をただ鵜呑みにして追っかけるのではなく、自分の頭で問い、考え、取捨選択しながら新たに実践をつくりだしていく拠点となるものです。それらの見方考え方を教員になってからも成長させつづけていくことが大切ですが、教員になるまでにも、大学での学修も重んじながら、成長させることをめざしてほしいと思います。

既に学生諸君は見方考え方をもっています。だからこそ、教育ボランティア活動において、きっと何度も何度も、揺さぶられることになるでしょう。問いなおし、見つめなおし、考えなおし、見方考え方をつくりかえることもあるでしょう。答えをうみだせず、モヤモヤがつづくこともあるでしょう。何れにしろ、疑問を解決できなかったことも含め、そうした「経験」をぜひ、記録にのこしてください。そうして、後から、折にふれて、振り返ってください。それらが新たな疑問や新たな成長につながることでしょう。

進路を迷っている学生諸君も教育ボランティア活動にチャレンジしてください。しばしば教員の労働環境は“ブラック”といわれますが、教員は定年まで勤める比率が民間企業より格段に高いこと、精神疾患による休職率が一般の公務員より低いことも事実です。この活動を通して教員という職業の魅力をさぐってみてください。一方、教育ボランティア活動の経験者には、地域学習アシストの活動をおすすめします。これは、大学院生や大学教員らとともにチームをつくり、地域の学校の課題解決について実践的に取り組む活動です。教育ボランティアの発展形として、より大きな自己成長の機会となることでしょう。

教育ボランティアに積極的に挑戦しよう

教育ボランティア委員会委員長
志　村　結　美

2023 年度はやっと新型コロナウィルス感染症の影響から解放され、従来通りの教育ボランティア活動を行うことができました。前・後期教育ボランティアガイダンスにも以前のように、受け入れ先の学校や教育委員会等の皆様に数多く参加していただき、心のこもった熱い説明により、充実したガイダンスを行うことができました。そのおかげもあり、年間の教育ボランティアの参加登録者は 171 名、そして受け入れてくださった団体は 72 団体と充実した活動となりました。

本学の教育ボランティア活動の素晴らしいところは、2010 年度に発足した学生の運営委員会が教育ボランティアを支えていることにあります。前述の前・後期教育ボランティアガイダンスの運営はもちろんのこと、教育ボランティアスタートセミナー(教育ボランティアを初めて行う学生向け)や教育ボランティア報告会の企画・運営を２０名近い学生で構成されている学生運営委員会が行っています。また、「教育ボランティア通信」の年 4 号の発行も担っていて、広くその活動を発信しています。学生の皆さんには、教育ボランティア活動に参加することと同様に、是非、教育ボランティア運営委員会にも積極的に参加して欲しいと期待しています。

さて、皆さんもご存じのとおり、教育ボランティア活動の意義は多岐にわたります。

まずは、教育現場を具体的に体験することにより、教員として必要な資質・能力を身につけることができます。大学生の時に、教育現場に直接触れることができるのは、教育実習以外では教育ボランティア活動のみです。本学でこの教育ボランティア制度が正式に行われるようになり 20 年近くになりますが、今や教員を目指す学生の皆さんにとって、必要不可欠なものとなっています。また、この教育ボランティア活動で初めて、児童・生徒としてではなく、教師としての立場で学校現場に携わるという人も多いと思います。「教員になりたい」という夢を現実にするために、積極的に参加して欲しいと思います。教員として必要なリーダーシップ、コミュニケーション能力、問題解決能力など、多くのスキルを身につけ、子どもたちとの関わりを通じて、忍耐力や柔軟性、教育へ情熱を深めることもできるのではないでしょうか。また、多様な受け入れ先がありますので、様々なバックグラウンドや文化を持つ子どもたちと接し、異なる文化や経験を持つ子どもたちとの交流を通じて、相互理解や共感を深め、異なる視点や価値観を学びながら、広い視野を持つことができると思います。

また、教育ボランティア活動は子どもたちの学びや成長を支援する大切な役割を果たしています。学校や教育機関では、個々の子どもに対する十分なサポートが難しい場合もあります。学生のみなさんが教育ボランティアとして、教育現場に参加することで、個別最適な指導や学習支援を提供し、子どもたちの学びの機会を広げ、深める事ができるのです。子どもたちの成長や楽しそうな顔、きらきらとした瞳に触れることは、必ずや皆さん自身の満足感や幸福感、充実感を高め、「教員になりたい！」という気持ちを強くしてくれると思います。

「人生とは未知の自分に挑戦すること」、「私たちは運命を生きるのではなく、運命をつくっていくのです」こちらは、百歳を超えても医者として活躍した日野原重明氏の言葉です。「運命」も自分の努力次第で変わり、まず積極的に行動をしてみようとおっしゃっています。是非、教育ボランティア活動に積極的に挑戦し、自らの運命を自らの手でつくっていきましょう！

教育ボランティア活動を始めるにあたって

本学の教育ボランティア活動は，学生による小中学校での学習指導を通じて，児童生徒の学力を向上させるとともに，教職を目指す皆さんの学びを深めるために，平成 17 年（2005 年）からスタートしました。現在の活動は，学習指導だけでなく，学校行事・部活動の指導補助，障害のある児童生徒の支援，不登校児童生徒の支援など幅広いものとなっています。また，この教育ボランティア活動は社会参加実習として科目化されています。

１　教育ボランティア活動申込み手順

⑴ 教育ボランティアガイダンスに参加する。

・前期（４月）と後期（10 月）に開催します。

・教育ボランティアの受入先の方が活動内容などを説明してくださいます。併せて，提出書類や申込み方法の確認をします。

⑵ 希望受入先を決定する。

・教育ボランティア活動を通じて，何を学ぶかをはっきりさせましょう。

・ガイダンス時の資料，CNS での情報，学内掲示ポスター，交流会・報告会，先輩や友達の声等から活動先の情報収集を行いましょう。

・どこの受入先が自分に適しているか検討しましょう。

・学びの目的，他の授業への影響，活動日時や場所，交通手段等から考えてみましょう。

⑶ 教職支援室へ名簿登録をする。

・Web 上から申し込んで名簿登録をします。

・教育学部のホームページ内のアンケートより，「教育ボランティア登録」をクリックし，必要事項を記入して送信することによって申し込みます。

※詳しくは，Ｐ９～10 を参照。

⑷ 「保険加入確認ならびに指導教員確認書」を提出する。

・自分が加入している保険の種類を確認し，「保険加入確認ならびに指導教員確認書」（Ｐ12 参照）に必要事項を記入します。

・所属コースの先生方から活動の許可をいただき，「保険加入確認ならびに指導教員確認書」に署名・捺印をしていただいてください。

・ガイダンス実施日から１週間以内に，「保険加入確認ならびに指導教員確認書」を教職支援室に提出します。

⑸ 活動前に受入先の先生方と日程調整等の相談をする。

・原則として，活動先の担当者の方から，電話・メール等で連絡があります。自分から勝手に連絡を取らないでください。

ただし，５月中旬までに連絡がない場合は，学生の皆さんが受入先に連絡を取り，具体的な相談をしてください。

※大学では事前に，受入先ごとに希望者の名簿一覧表を作成し，受入先に送付します。

・多くの学校等では，日程の調整等が確認されると，事前にボランティア活動を進めるにあたっての指導等が行われています。

⑹ 活動を開始する。

・自分の学びの目的をしっかり確認し活動を進めましょう。

・通年での活動は５月～２月，前期は５月～９月，後期は 10 月～２月を原則とします。

・実質的な活動のスタートは，５月中旬以降となります。

◇ <u>登録にあたっての補足</u>

以下の学生は，「教育ボランティア活動申し込み手順」(3)(4)に加え，手続きが必要な場合があります。（「社会参加実習」の単位取得を希望する場合）

・教育学部大学院生は，「履修申請書」を教育教務に提出。（その他の単位）

・他学部生は，自分の所属学部の教務に「他学部聴講願」を提出。（その他の単位）

・特別支援教育特別専攻科の学生は、規定上単位取得はできない。活動は可能。

◇ <u>名簿登録の最終〆切</u>

・12 月の指定された日になります。

・この〆切は，原則として途中でボランティア募集があったものや特別な事情があったものに限ります。

２　学びの振り返りシート・活動報告書・学びの活動記録

ただ単にボランティアの活動をしただけでは学びを深めることはできません。目標を立てて，活動で心に残ったことなどを記録にして，活動の振り返りをしてみると自己の成長や課題に気づくことができると思います。自己の学びの履歴として，少しずつ，活動記録を残してください。

<u>下の(1)(2)の提出は単位取得の要件であるため，提出しない場合は単位取得ができません。</u>

⑴ 学びの振り返りシート（Ｐ５）参照）

・様式を CNS からダウンロードして作成し，印刷したものを，１月１０日までに教職支援室に提出します。

・活動が２月まで継続する場合，２月分の活動については，見込みの計画を記入します。

⑵ 活動報告書

・教育ボランティア活動の記録をＡ４版１／２ページ（45 字 20 行）にまとめます。

・様式を CNS からダウンロードして作成し，データを，１月１０日までに教職支援室にメールで提出します。（<u>kyouikuv@yamanashi.ac.jp</u>）

・提出された活動報告書の中から，いくつかを抽出して，次年度のガイダンスブックに「活動の報告」という形で載せます。（全員分ではない）

（３） 学びの活動記録

・毎回の活動時に持参し，活動日・活動時間を記録してから，受入先で印をもらいます。学生側の活動の控えとして，単位認定されるまで保管します。

教育ボランティア 学びの視点

1年～3年（入学から教育実習前）

	学びの視点	具体的な学び
①	指導者や教師の仕事	指導者や先生方の働く姿
②	理想の教師像	ボランティア先や自分が出会った先生
③	今の子どもの特徴	私の小・中学生の頃と今の子の違い
④	育てたい子ども像	学校の教育目標，これからの時代
⑤	学校・関係機関の役割	学校や関係機関の役割，関連
⑥	他の学生からの学び	観察，活動，話し合い等で具体的な発見
⑦	授業づくり・個別指導	授業構想，指導方法，教材教具・発問・板書等の工夫
⑧	話し合い活動	話し合いの仕掛け，意欲的な学び
⑨	コミュニケーション力	課題意識をもち，先生方等との対応
⑩	学級経営の充実	班づくり，係活動，人間関係づくりなど
⑪	施設や教室掲示等の環境	施設・教室・校内の掲示物，花壇等
⑫	児童生徒理解の方法	子どもとの接し方，一人一人の児童生徒の違いの理解，信頼関係づくり，
⑬	支援が必要な児童生徒	先生からの情報，児童生徒の実態把握
⑭	保護者・地域連携	学級・学校通信等，地域人材の活用
⑮	**自ら設定した視点**	具体的な指導計画や指導の実際等

教育実習

3年～4年（教育実習後から卒業前）

	学びの視点	具体的な学び
①	理想の教師像	私が目指す未来の教師像
②	目指す子ども像	子どもに身につけさせたい力と未来像
③	身に付けるべき教師力	教育実習先やボランティア先の先生方の教育実践や自己体験をもとに，教師力の再考．現段階で私自身が磨きをかけるべき教師力．
④	授業づくりの方法や個別の学習指導のあり方	教育実習での課題を踏まえた，ボランティア先での授業づくりや個別指導のあり方．単元全体を見通した授業計画，授業(指導)構想，教材教具，発問，板書，話し合いやグループワーク等の工夫等．
⑤	児童生徒理解の方法	教育実習での児童生徒理解の振り返り，より深い児童生徒理解の方法の追及．
⑥	チーム学校，関係機関との連携	学校教育の諸課題等に対する学校校内外の連携
⑦	特別支援教育の進め方	交流学級の経営　児童の実態把握
⑧	**自ら設定した視点**	具体的な指導計画や指導の実際等

□　自ら「学びの視点」を設定し，教育ボランティア活動に取り組みましょう。特に，「学びの振り返りシート」を作成する際に，上記の「学びの視点」を参考にして，「教育ボランティア活動を進めるにあったっての決意（目標）」を記述してください。

□　上記に挙げた参考例をもとに教育ボランティアノートを作成し，各項目で自分自身が学んだ見方考え方や，実践して学んだことがらをまとめておくことが，教師力の基礎を高めていくことにつながっていきます。

◇学びの振り返りシート

※　このシートは、受入先ごとや、前期と後期で分けてもかまいません。ボランティア活動の内容や機関などによって、1枚のシートに工夫して、自分の取り組みの記録を残してみましょう。そこから、あなた自身の成長を確認するとともに、次のステップに向けて手がかりをつかんでいきましょう。

学年	コース
学籍番号	氏名
1　活動場所	
2　主な活動内容	
3　教育ボランティア活動を進めるにあたっての決意（目標）を記述してください。	※　活動を行う前に記入します。
4　今日の活動で一番心に残ったことを記述してください。	
月　日	※　その日の活動を終えたところで記入します。
月　日	※　4の欄が足りない場合は、別紙を利用し記入してください。
月　日	
月　日	
月　日	
月　日	
月　日	
月　日	
月　日	
月　日	

月　日	
月　日	
月　日	
5　あなたの決意（目標）を振り返り、自分が変わったと思う点があれば、何がどのように変わったのか、また、そのことについてどう思っているのか、記述してください。	※　一連の活動が終了したら、記入します。
6　活動を通じて、あなたが学んだことやこれからのボランティアで力を入れて取り組んでみたいことを記述してください。	※　一連の活動が終了したら、記入します。
7　その他（ボランティア活動に関して何かありましたら自由に記述してください。）	

３　ガイダンス・スタートセミナー・報告会

⑴ 教育ボランティアガイダンス

・日時と会場　前期：4 月 17 日（水）4 限　M-12・N-11 教室
　　後期：10 月 2 日（水）4 限　N-11・N-12 教室

・内容　受入先や教育ボランティア委員会，学生運営委員会からの説明と指導及び提出書類の確認等

※活動希望者は全員出席してください。

※特別な事情で欠席せざるを得ない場合は，教職支援室に相談してください。

⑵ 教育ボランティアスタートセミナー

・日時　4 月 10 日（水）3 限

・会場　N-11 教室

・内容　教育ボランティア活動体験発表，受入先の先生のお話，グループ協議

※教ボラ初心者の 1, 2 年生向けのセミナーです。
　教ボラに対する疑問や不安を解消し、教ボラに対する理解を深めましょう。

⑶ 教育ボランティア報告会

・日時　12 月 11 日（水）3 限

・会場　N-11・N-12 教室

・内容　教育ボランティア活動体験発表，グループ協議，指導講評

<u>※単位取得希望者は，全員出席です。出席しないと単位取得ができません。</u>

※特別な事情で欠席せざるを得ない場合は，教職支援室に相談してください。

※ガイダンス・スタートセミナー・報告会への出席や参加は，単位取得に必要な時間数のうちの１時間にカウントされます。

・受付時の名簿記入によって，出席を確認します。

※⑴～⑶は，いずれも教育ボランティア学生運営委員会によって運営されます。報告会での体験発表については，学生運営委員会から依頼します。依頼されたら，快く引き受けてください。

４　活動を進めるにあたっての留意点

⑴ 活動先の選択にあたっては，様々な視点から検討しましょう。

・教育ボランティア先で何を学びたいのか。

・対象は小学生か中学生か，特別支援を必要とする児童・生徒か。

・活動内容は，授業中の支援か，放課後の学習支援か，学校行事等の補助か。

・交通手段をどうするのか。

・大学内の授業に支障をきたさないか。

・平日か，土日等を活用するのか。

⑵ 受入先から特別に指示がない限り，教育実習同様，きちんとした服装・頭髪・態度で臨みましょう。

⑶ 受入先と訪問日を確認し，絶対に無断欠席をしないようにしましょう。

・万が一，訪問できない事情が生じた場合には，事前に受入先担当者に必ず連絡を取ります。

<u>※緊急対応マニュアル(13～14)参照</u>

⑷ 受入先の指導担当者等の指導のもとに活動しましょう。

・活動中に何らかのトラブルが発生したり，巻き込まれたりした場合は，必ず受入先の指導担当者に連絡してください。

⑸ 暴力・体罰・児童の心身を傷つける言動や差別発言等は絶対にしません。

⑹ 活動中に知り得た児童・学校・学級・教職員・保護者等に関する情報を他者に漏らさないよう注意しましょう。活動終了後も同様です。（評価物も持ち帰らない。）

⑺ 児童や先生方等の信頼を裏切らないよう，誠実な態度で活動に臨みましょう。

⑻ 家庭への電話や文書による連絡，家庭訪問は禁止です。

⑼ ボランティア活動時間以外に児童との接触を持つことは禁止です。

・住所，電話，mail アドレス等，連絡先を教えることや，休日等の引率，呼び出し等は行ってはいけません。

⑽ 児童はもちろんのこと，先生方等とのあいさつをしっかり行いましょう。

・活動の最初と終わりに「おはようございます。」「こんにちは。」「よろしくお願いします。」「失礼します。」「ありがとうございました。」「さようなら。」「はい。」という返事，廊下ですれ違ったら会釈等をしましょう。

⑾ 活動先への行き帰りの時など，交通事故には十分注意しましょう。

・加入している保険について，補償内容などを必ず確認しておきましょう。学校周辺や校内の駐車場付近は徐行し，児童の急な飛び出しに注意しましょう。交通安全を最優先に考え，時間的にゆとりを持って行動するよう努めましょう。駐車車両は指定された位置に駐車しましょう。

⑿ 活動先で，ネームカードがある場合には着用しましょう。

⒀ 自己の体調管理をしっかり行う中で活動に取り組みましょう。

・発熱等，体調不良の兆候が見られる場合は，無理をせず必ず医師の診断を受け，その指示に従いましょう。特に，インフルエンザに留意し，予防接種を受けた上で，活動に入る前に，手洗い・うがいを励行し，マスクの着用等受入先の指導には必ず従いましょう。また，麻疹の抗体検査を受けていない学生は，個別に保健管理センターで相談を受け，対応しましょう。

⒁「体調不良による欠席」「活動先への移動中の交通事故等の緊急事態の発生」「活動中の児童のケガや自分がけがをしたり体調不良になったりした場合」は，緊急対応マニュアル(Ｐ13～14)で対応しましょう。

⒂ 教科書等の教具がある場合には，指導担当者と相談し保管しましょう。

⒃ 貴重品は極力持っていかないようにしましょう。また，スマートフォンは，児童・生徒に見せないようにしましょう。

⒄ 教育ボランティア活動で困ったことがあったら，積極的に相談しましょう。

・活動先では，原則として，活動日に連絡・相談・報告を行います。急を要する場合は，指導担当者（学校では担当の先生か教頭先生等）に必ず相談するようにしましょう。先生方の時間が取れない場合は，所定の連絡ノート等に記録します。その際，５Ｗ１Ｈに留意し，明確に記録します。時間がある場合には，その都度，担任の先生等から指導をいただきましょう。

・大学では，随時，ボランティア委員会担当教員・教職支援室で応じます。

・活動先への電話連絡は，「教育ボランティアの〇〇です」という形で連絡を取ります。メール連絡をする場合にも同様に，必ず，記名をするようにしましょう。

⑱ 教育ボランティア活動に関する情報収集に心がけましょう。

・教育ボランティア活動に関するお知らせは，必要に応じて CNS や学内ポスター，教職支援室からのメールで行います。これらの情報にいつも目を通す習慣を付けてください。

5　社会参加実習の特性と単位取得

⑴ 社会参加実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳの特性

・教育学部学校教育課程共通専門科目（選択）の不定期実習です。

・学校教育課程以外の学生は、卒業要件でないその他の単位になります。

・活動時間は年度を越えて積算でき，１年間に１単位，４年間で最大４単位まで取得できます。

⑵ 単位取得

・２月中旬までに，大学教員による教育ボランティア委員会（単位認定会議）を開き，受入先から提出された活動報告書，各書類の提出状況，報告会への出席状況に基づいて，単位取得について検討がなされます。

活動内容に特に問題がなく，次の３つの要件をすべて満たしているとき，教育ボランティア委員会が１単位を認定します。

① 45 分間活動した場合を１時間とカウントし，30 時間以上（実質活動時間が 22.5 時間以上）の活動で１単位とします。

② 「学びの振り返りシート」「活動報告書」の両方を提出します。

③ 「報告会」に出席する。

⑶ 単位取得にかかわる留意点

・ガイダンス，学生交流会，報告会への参加はそれぞれ１時間とカウントします。

・受入先より提出されるボランティア活動報告書の活動時間は，２月までの活動見込み時間としてカウントされます。３月は受入先との相談で活動は可能ですが，活動時間にはカウントされません。

・単位取得の要件を満たさず，単位として認定されなかった場合，カウントされた時間数は，30 時間を上限として次年度に繰り越すことができます。

繰り越しは次年度までで，それ以降への繰り越しはありません。

・単位として認定された場合，30 時間を超えた分の時間数を次年度に繰り越すことはできません。

・教育学部大学院生は，「履修申請書」を教育教務に提出します。（その他の単位）

・他学部生は，自分の所属学部の教務に「他学部聴講願」を提出します。（その他の単位）

・特別支援教育特別専攻科の学生は、規定上単位取得はできませんが、活動は可能です。

６　個人情報の取り扱い

⑴ 学生の個人情報に関する大学側の取り扱い

【利用目的】

教育ボランティア活動をするにあたり提供された学生の個人情報は，本人への連絡，緊急時対応のみに利用されます。

【情報の提供】

原則として，外部への情報提供はしません。

受入先へ提供する情報は（学籍番号・氏名・学部・コース・学年・電話番号・活動希望時間）です。また，提供した情報は年度末に破棄するように依頼します。

⑵ 活動中に知り得た個人情報の取り扱い

受入先等で，活動中に知り得た個人情報はけっして漏らしてはいけません。活動終了後もまた同様です。

７　教育ボランティア活動への申し込み方法について

教育ボランティア活動への申し込みは Web 上から行います。

《手順》

以下の順番でアクセスしてください。

山梨大学ホームページ → 教育学部 → 学部内専用 → 教育ボランティア → 教育ボランティア登録フォームへ

☆「学部内専用」にアクセスするには YINS-SS のログイン画面からログインする必要があります。

☆ガイダンス当日に、CNS の掲示板に登録画面へのリンクも貼ります。

【教育ボランティアに関する問い合わせ先】

☆教育ボランティア専用アドレス　kyouikuv@yamanashi.ac.jp

☆教職支援室(L-120)　055-220-8748

【教職支援室からのお知らせ】

教育ボランティアに関するお知らせは、CNS の掲示板で行います。また、学生個人に連絡する場合は、CNS のメッセージで連絡します。定期的に確認してください。

Web 申し込み
（申請入力画面）

「保険加入確認ならびに指導教員確認書」と同じ内容になるように入力してください。

教育ボランティア登録申請フォーム

登録内容は社会参加実習に関すること以外の目的では使用しません。
不明な点は教職支援室（L-120）に問い合わせてください。

入 力 例

・学籍番号（必須）　e2301000
・氏名（必須）　山梨　太郎
・氏名フリガナ（必須）ヤマナシ　タロウ
・学部(必須)
　●教育学部
　〇その他の学部（学部・課程・コース等を入力）
　◇教育学部の学生のみ、コースを選んでください。
・教育ボランティア活動経験（必須）
　●有
　〇無
・電話番号（必須）090-××××-××××
・社会参加実習の単位取得希望（必須）
　●有
　〇無
・社会参加実習の科目番号　（1 から順に履修してください。）
　〇１　●２　〇３　〇４
・加入している保険の名称（未加入の場合申請できません。）（必須）
　〇「学生教育研究災害傷害保険」＋「学研災付帯賠償責任保険」
　〇「学生教育研究災害傷害保険」＋「学研災付帯学生生活総合保険」
　〇「学生総合保障制度（こども総合保険）」
　●「学生総合共済」＋「学生賠償責任保険」
　〇その他（名称：
・活動期間（必須）
　●通年　〇前期のみ　〇後期のみ
・希望受け入れ団体：（複数チェック可）（必須）
　■　〇〇市教育委員会
　□　△△市教育委員会
　□　〇〇小学校
　■　△△小学校
　□　◇◇中学校
　□　〇〇団体
・希望活動時間（必須）（例）〇〇市教委：月曜終日、△△小：火曜午前中　など
・補足（例）教育実習期間など自分の活動できない期間や、その他伝えておきたいこと
・本学指導教官氏名（必須）　※保険加入ならびに指導教員確認書にサインをもらう先生の名前

※携帯電話の番号をお願いします。
半角でハイフンをいれて入力してください。

※活動経験のある場合は、過去の取得単位を確認し、番号にチェックしてください。

※通年での活動をおすすめしますが
半期のみの活動もできます。

※複数で活動する場合、それぞれの場所での活動時間が分かるように入力してください。

送信

教育ボランティア web 申請手続きは完了しました。

✧ 今回の申請について修正やキャンセルがあるときは教職支援室（L-120）にすみやかに申し出てください。

８　保険加入確認ならびに指導教員確認書について（P10 参照）

教育ボランティア活動をする場合も保険加入が義務付けられています。下記の案内は，2023 年度用に新入生を対象に配布された「学生保険について」の資料です。２年生以上の皆さんもすでに入学時に下記の４つの学生保険等に加入されていることと思います。

現在，自分が加入している保険の名称・特色や補償範囲を必ず確認しておきましょう。

例えば･･･

☆　自転車で活動先に行く途中，通行人にぶつかってケガをさせてしまった。保険金が支払われるのか。支払われるとしたら金額はどの程度か。

☆　バイクで活動先に行く途中で，自動車と接触事故をおこし，骨折し通院することになった。保険は支払われるのか。支払われるとしたら，通院した初日からか，金額はどの程度か。

☆　活動中に偶然，子どもたちにケガをさせた，あるいは，自分がケガをしたとき，どの程度の金額が支払われるか。

保険内容がよく分からない場合は，加入先等に直接電話をして確かめましょう。また，「保険加入確認ならびに指導教員確認書」を必ず提出してください。（Ｐ10 参照）

学生保険について

【2024 年度用】

山梨大学では入学時に，授業中，課外活動等学生生活における万一の事故及びインターンシップ・教育実習・臨床実習等での不慮の事故により賠償責任が発生した場合などに対応できる「学生保険」への加入を大学の方針としております。

山梨大学で取り扱っている「学生保険」は下記のとおり４種類あります。それぞれパンフレットを添付し，ご案内します。それぞれの保険の特色，補償範囲をよく把握してご加入してください。

なお，付帯の「賠償責任保険」にも必ず同時に加入してください。

①　「学生教育研究災害傷害保険」＋「学研災付帯賠償責任保険」

お問い合わせ連絡先：学生支援課　TEL.055-220-8054・8053

加入方法：「学務関係手続き」時において加入。

②　「学生教育研究災害傷害保険」＋「学研災付帯学生生活総合保険」

お問い合わせ連絡先：学生生活総合保険相談デスク　TEL.0120-811-806

加入方法：まず，「付帯学生生活総合保険」の保険料を振込む。
その後「学務手続き」時において必ず「学生教育研究災害傷害保険」に加入すること。
その際「付帯学生生活総合保険」に加入したと申し出ること。

③　「学生総合補償制度（こども総合保険）」

お問い合わせ連絡先：文教インシュアランス　TEL.0120-740859・313215

加入方法：保険料の振込みによる加入。「学務手続き」時においても加入可。

④　「学生総合共済」＋「学生賠償責任保険」

お問い合わせ連絡先：山梨大学生活協同組合　TEL.055-252-4757

加入方法：保険料の振込みによる加入。「学務手続き」時においても加入可。

◎学生保険全体に関しては教学支援部学生支援課に相談してください。

担当：山梨大学共学支援部学生支援課
保険担当　055-220-8054・8053

教育ボランティア　　※ガイダンス日から１週間以内に教職支援室へ提出してください。

保険加入確認ならびに指導教員確認書

学籍番号：	氏名：
所属コース：	
希望受入先：　（例）○○小学校，●●中学校	
単位取得希望：　有　・　無	授業科目名：社会参加実習（ Ⅰ ・ Ⅱ ・ Ⅲ ・ Ⅳ ）

↳どちらかに○を付けてください。　↳Ⅰから順に取得してください。

【学生保険加入確認ならびに指導教員確認書の手続きについて】

(1) 下記の表の中から現在加入している保険の□にチェックする。

(2) 新規に申し込む教育学部生と、教育学部以外の学生（大学院生、他学部生、科目履修生等）は、その保険に加入していることが証明できる書類のコピーを用意する。

・1～4については〔　〕内に示したもの，5については内容の分かるものを添付する。

(3) 自動車・バイクの任意保険確認欄にチェックをする。

(4) **指導教員のサインと認印**をもらう。

(5) 教職支援室 L120 へ提出する。　(2)の該当者は保険加入の証明書のコピーを添付すること

保険未加入者は必ず加入してください。加入がなければ活動はできません。

1. □ 「学生教育研究災害傷害保険」＋「学研災付帯賠償責任保険」〔保険料分担金領収証〕
2. □ 「学生教育研究災害傷害保険」＋「学研災付帯学生生活総合保険」〔１と同じ〕
3. □ 「学生総合補償制度（こども総合保険）」〔加入者証〕
4. □ 「学生総合共済」＋「学生賠償責任保険」〔証書〕　賠償責任のある保険への
5. □ その他
（名称：　　）

【自動車・バイクの任意保険確認欄】

教育ボランティア活動へ行く際に自動車やバイクを使用する場合は,任意保険への加入が必要です。以下にチェックをお願いします。加入が無い場合は自動車・バイクの使用はできません。

・自動車：□加入している　□加入していない　□使わない
・バイク：□加入している　□加入していない　□使わない

【大学の所属コース等の指導教員確認欄】

上記について確認しましたのでボランティア活動への参加を認めます。

指導教員名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

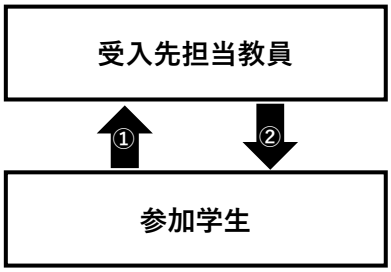
※不明な点は教職支援室に相談してください。

９　緊急対応マニュアル

【体調不良等で欠席する場合】

①欠席する事情が生じたときは、速やかに受入先の担当教員に連絡する。
※担当教員が不在の場合は「欠席」の伝言を依頼する。

②必要に応じて、代替日等について日程調整の連絡をする。



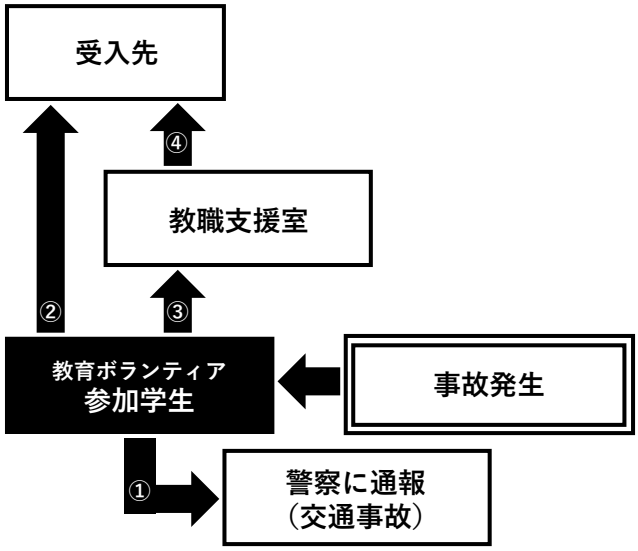
【受入先への移動中に交通事故等の緊急事態が発生した場合】

①交通事故の場合は、軽度の人身事故、物損事故であっても必ず警察に通報し対処する。

②連絡可能であれば、受入先に直ちに連絡する。
※すぐに連絡することができなかった場合は、可能になった時点で速やかに連絡する。

③教職支援室に報告する。

④教職支援室からも受入先に連絡する。



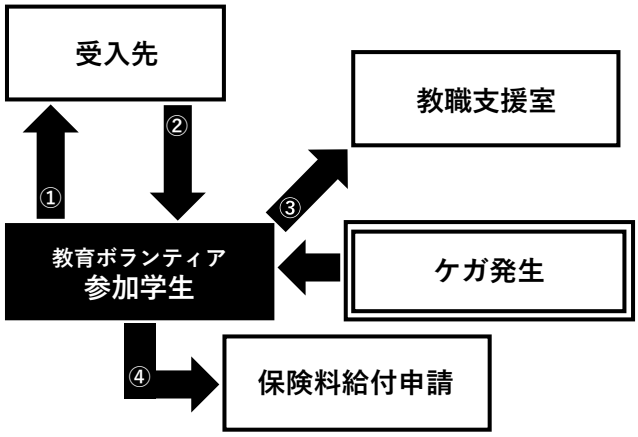
【ボランティア活動中に子どもにケガを負わせたり、自分がケガや体調不良になった場合】

①受入先の担当教員に直ちに報告する。

②担当教員の指示を受けて対応する。

③教職支援室に事後報告を必ず行う。

④必要に応じて、保険料給付申請を行う。



【無断欠席をした場合】

①受入先または教育委員会から教職支援室に連絡がくる。

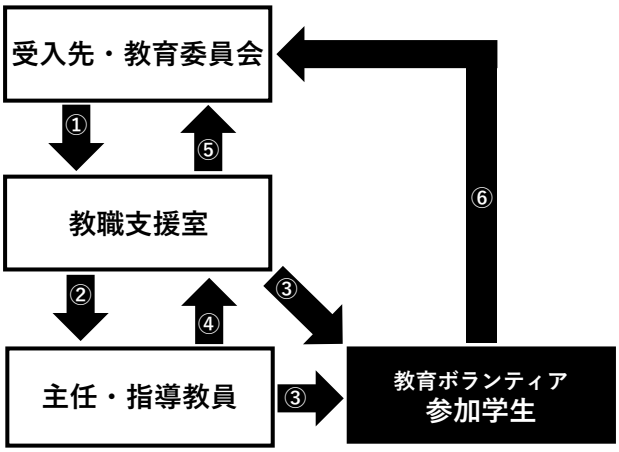
②教職支援室から講座主任及び指導教員（学生保険加入確認書に署名した教員）に状況を連絡する。

③講座主任または指導教員が学生と面談して指導するとともに、今後の対応を決定する。
※状況によっては、教育ボランティア指導員も面談して指導する。

④主任・指導教員から教職支援室に報告する。

⑤教職支援室から受入先または教育委員会に指導の状況と今後の対応を報告する。

⑥学生が受入先や教育委員会に直接謝罪する。



【やむをえない事情で活動を辞退する場合】

①学生が辞退する事情を講座主任または指導教員（学生保険加入確認書に署名した教員）に事情を説明する。

②講座主任または指導教員は、やむをえないと判断した場合、教職支援室に連絡する。

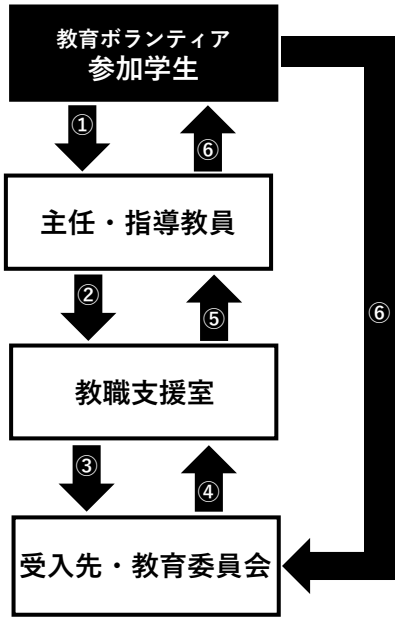
③教職支援室は、受入先・教育委員会に連絡する。

④受入先・教育委員会から承諾を得る。

⑤教職支援室は、講座主任または指導教員に承諾されたことを連絡する。

⑥講座主任または指導教員は、学生に承諾されたことを連絡する。

⑦学生は、受入先・教育委員会に直接連絡する。



教育ボランティア活動にかかわって，緊急に対応が必要な事態が発生した場合は，自分で勝手に判断するのではなく，マニュアルにしたがって行動してください。

令和５年度教育ボランティア活動を振り返って

１　教育ボランティアガイダンスについて

○前期ガイダンス

令和 5 年 4 月 19 日（水）（109 名参加）　N-11 教室・N-12 教室

受入機関ガイダンス参加数　16 機関

○後期ガイダンス

令和 5 年 10 月 4 日（水）（64 名参加）　M-11 教室・M-12 教室

受入機関ガイダンス参加数　15 機関

２　教育ボランティアスタートセミナー・報告会について

○教育ボランティアスタートセミナー　※教育ボランティアを初めて行う学生向け

令和 5 年 4 月 12 日（水）（62 名参加）　N-11 教室

・受入先の先生のお話　玉幡小学校　久保田　勲教頭

・グループ協議「教育ボランティア経験者に聞いてみよう」

○教育ボランティア報告会　令和 5 年 12 月 6 日（水）（82 名参加）N-11・N-12 教室

・ボランティア体験発表　　井口　雄月さん（科学教育コース 4 年）

・グループ協議「教育ボランティアで学んだこと」

３　令和５年度教育ボランティアの活動実績（登録人数）　（☆印　新規受入先）

1	甲府市教育委員会＊	45 人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
2	南アルプス市教育委員会＊	8 人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
3	甲斐市教育委員会＊	16 人	中学生対象自学講座，授業中の指導補助等
4	中央市教育委員会＊	2 人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
5	昭和町教育委員会＊	9 人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
6	韮崎市教育委員会＊	5 人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
7	北杜市教育委員会＊	1 人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
8	笛吹市教育委員会＊	11 人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
9	市川三郷町教育委員会＊	2 人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
10	富士川町教育委員会＊	4 人	自習支援講座そよ風教室，授業中の指導補助
11	富士河口湖教育委員会	2 人	長期休業中の学習応援教室
12	山梨市立加納岩小学校☆	0 人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
13	山梨市立山梨小学校☆	2 人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
14	甲州市立大藤小学校	0 人	授業中の指導補助，児童生徒への支援等
15	私立駿台甲府小学校	2 人	放課後の学習支援補助，学童保育の支援
16	私立駿台甲府中学校	1 人	放課後の学習支援補助，部活動の支援等
17	北杜市立甲陵高等学校	0 人	放課後の学習支援，生徒への進路アドバイス
18	児童養護施設明生学園	5 人	小・中学生への個別の学習支援
19	中央児童相談所	6 人	一時保護児童の学習支援、余暇活動支援等
20	山梨県立科学館	1 人	実験工作教室の補助・コミュニケーション等
21	本学附属小学校	23 人	授業中の指導補助，学校行事の支援等

22	本学附属中学校	12 人	放課後の部活動の支援
23	本学附属幼稚園	3 人	保育における観察・記録，園行事の補助等
24	本学図書館附属子ども図書室	11 人	図書室運営，読み聞かせ等
	合計	171 人	

＊甲府市教委（22 校）＝新紺屋小，伊勢小，朝日小，相川小，千塚小，北新小，千代田小，玉諸小，山城小，東小，羽黒小，舞鶴小，中道北小，東中，西中，南中，北中，南西中，北東中，北西中，城南中，笛南中，
＊南アルプス市教委（5 校）＝若草小，若草南小，豊小，白根巨摩中，若草中
＊甲斐市教委（8 校）＝竜王小，玉幡小，竜王北小，敷島小，双葉東小，竜王北中，敷島中，自学講座
＊中央市教委（1 校）　＝田富小
＊昭和町教委（5 校）　＝押原小，常永小，押原中，土曜学習塾，フォローアップ学習会
＊韮崎市教委（5 校）　＝韮崎小，韮崎北東小，韮崎西中，かがやき教室，ミアキス
＊北杜市教委（1 校）　＝高根東小
＊笛吹市教委（8 校）　＝石和南小，御坂西小，一宮北小，八代小，春日居小，石和中，放課後子ども教室，土曜学びの広場
＊市川三郷町教委（2 校）　＝上野小，市川小
＊富士川町教委（1 校）　＝自学支援講座そよ風教室

年度	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
①のべ申込人数	203	216	257	263	225	259	151	224	226	171
②のべ活動者数	164	179	209	228	191	211	112	192	202	148
③活動申込人数	147	153	184	199	169	190	132	185	182	147
④活動者数	136	147	163	189	164	171	104	168	176	135
⑤受入先数	68	67	66	67	76	69	51	60	78	72
⑥単位取得者数	62	61	73	91	59	91	64	67	87	63

（令和 6 年 2 月 7 日作成）

参　考　教育ボランティア実績の推移

①・②…複数の受入先で活動をしている学生をそれぞれカウントした人数。延べ人数

③・④…実人数

②・④…実際に活動を行った人数。申込しただけで活動時間ゼロの学生や、ガイダンス参加のみの学生は含まない。

⑤…実際に派遣された受入先の数。市教委・町教委は派遣された受入先の数でカウント。

４　令和５年度教育ボランティア活動アンケート調査結果

教育ボランティア活動に対する学生と受入先の考えを把握し、今後の運営改善を図るために、令和５年12 月に実施したアンケート調査の概要を以下に示します。調査対象は、令和５年度に教育ボランティア活動を行った学生・院生と受入機関(学校等)で、回答数は、学生 145 人、受入先 32 カ所です。

【学生・院生対象】

１ 教育ボランティア活動開始時点での教育実習経験の有無

(1)経験していた　39 人（26.8%）　　(2)　経験していなかった　106 人（73.1%）

(1)の内、教育実習に行った経験から、教育ボランティアをしたいと考えた者　　22 人

(2)の内、教育実習に行く前に教育ボランティアで教育現場の様子を知りたかった者　100 人

２ 教育ボランティア活動をすると決めたときに考えたこと（動機にかかわるもの）

	大いに考えた	少しは考えた	あまり考えなかった	まったく考えなかった
将来、教職を希望しており、その役に立つ	118	26	1	0
教員採用試験に有利になる	76	56	10	3
子どもに教えるという経験をしたい	109	30	6	0
子どもと接することが好きだから、したい	112	27	4	2
内容はともかく、何かボランティアをしたい	25	45	50	25
時間をもてあましていたので、何かしたい	12	27	55	51
社会参加実習の単位を取得したい	51	49	28	17

「将来、教職を希望しており、その役に立つ」「子どもと接することが好きだからしたい」など、前向きに教職を考える学生の割合が今年度も高くなっています。また、その他に考えたこととして、「実際の教育現場を見たい」「子どもと関わりその実態を知りたい」「現職の先生の指導の様子を知りたい」「小学校・中学校どちらの進路を選択するかの指針にしたい」との声がありました。教員としての資質の向上のため、教育ボランティア活動を選んだ積極的姿勢が見てとれます。

３ 活動内容

〇学校における授業中の活動… 113 人参加（77.9%）≪昨年 54.7%≫

例：授業での指導補助（TT 指導など）、特別支援教育補助

〇学校における授業以外の活動… 78 人参加（53.7%）≪昨年 29.9%≫

例：放課後の学習指導補助、部活動指導補助、学校行事の補助

〇学校以外の場での活動… 32 人参加（22.0%）≪昨年 15.3%≫

例：中学生対象の自学講座、子ども図書室運営

※今年度も「学校における授業中の活動」が大きい割合を占め、多くの学生が授業を中心に支援・補助を行っています。

4 教育ボランティア活動の教育的価値（選択肢法）

＜回答率が多かった選択肢を挙げます。＞

〇教育実習とは異なり、評価を伴わずに、ゆとりをもって定期的に子どもと触れ合うことができるので、教育現場や子どもの実態をよりよく把握できる。（75.8%）

〇様々な個性をもった子どもの存在と、それへ対応することの必要性と難しさに気づくことができる。（73.1%）

〇教育実習の前に活動を行うことで，教育実習に向かう心構えができる。（69.6%）

〇子どもの生活行動面の実態，考えていた子ども像とのギャップなど、生の姿を理解できる。（68.2%）

〇子どもへの言葉のかけ方、褒め方・叱り方の難しさや大切さなど、子どもに対する言語的な関わりの重要性が理解できる。（64.8%）

※実際の教育現場にかかわる中で子どもの実態を捉え、指導の困難さや重要性に気づき、現場の教員や子どもから多くを学んでいる姿が伺えます。

5 教育ボランティア活動を通して感じた「教職に就くにあたっての課題」（自由回答法）主なもの

・コミュニケーション

（子どもとのコミュニケーションの取り方、工夫、コミュニケーション能力、偏り、平等、先生方との関わり、情報共有）

・児童生徒への声かけの仕方（つまずいている児童への声かけ、一人一人に合った声かけ）

・児童生徒への接し方・距離感

（適切な接し方、年齢に応じた関わり方、距離の測り方、近すぎれば友達感覚になってしまい指示を聞かないことが出てくる。取りすぎると日常の悩みを打ちあけてくれない。威厳を持つ）

・児童生徒理解（子どもをどうとらえるか、どうやって信頼関係を築くか）

・叱り方・注意の仕方

・指導法・指導力・指導観

（授業の仕方、指導の難しさ、子どもが興味をもてるような授業作り、授業の最低ラインをどこに合わせるか）

・話す力（人前に立って分かりやすく説明する力、自分の発言に責任を持つこと）

・教科の知識理解（専門性、専門的知識の不足、大学で学んだ知識を現場での指導と結びつけること）

・生徒指導（家庭環境が複雑な子に対する保護者や関係機関との連携）

・個に応じた対応（色々な児童生徒に対する柔軟な対応）

・全体への対応（子どもたち全員に目をかけることの難しさ、全員に同じだけ目を向けること、クラスをまとめること）

・積極性・行動力

・体力（多忙な教育現場でやっていく力）
※以上のような意見がありました。

６ 継続参加希望

〇参加したい 132 人　〇参加したくない 1 人　〇その他(卒業などで機会がない等) 11 人

※大多数の学生が継続参加を希望しています。この傾向はここ数年変わっていません。

７ 教育ボランティア活動をよりよいものにしていくための改善点や要望（自由回答法）

・他の人の活動などを見に行ったり、複数人で同じ現場に行ったりする機会が欲しい。不可能であれば、写真や映像媒体で何か見る機会があればいいと思った。
・同じ受け入れ先の人と振り返ることや問題点、疑問点を議論する機会があると良い。同じ時間にボランティアに行く訳では無いので交流したい。
・学びの振り返りシートのデジタル化
・教育ボランティア体験発表会を活動に参加していない人向けにも開催する
・報告会のグループ協議について、もう少し少人数でやりたい。

【受入機関（学校等）対象】

(1) 教育ボランティア活動の受入機関（学校等）にとっての教育的価値（選択肢法）

回答率が高かった選択肢を挙げます。

① 個別指導など個に応じたきめ細かい指導が可能となる。習熟度別指導や小グループ指導など指導形態の多様化が図れる。（75.0%）
② 教職員よりも年齢が近いことによって、上下関係でない関わりが持てたり、若さによる情熱ある指導ができたりする。(71.8%)
③ 教職員以外の大人と触れ合う機会がもてる。担任とは違った存在として関わることの効果が期待できる。（68.7%）
④ 教育現場における人員不足が解消できる。(62.5%)
⑤ 学生の熱意や頑張りで活動が活性化する。(59.3%)

(2) 教育ボランティア活動の学生にとっての教育的価値（選択肢法）

回答率が高かった選択肢を挙げます。

① 様々な個性をもった子どもの存在と、それへ対応することの必要性と難しさに気づくことができる。（84.3%）
② 子どもの生活行動面の実態、考えていた子ども像とのギャップなど、生の姿を理解できる。（75.0%）
③ 教育実習とは異なり、評価を伴わずに、ゆとりをもって定期的に子どもとふれあうことができるので、教育現場や子どもの実態をよりよく把握できる。（71.8%）

④ 子どもへの言葉のかけ方、褒め方・叱り方の難しさや大切さなど、子どもに対する言語的なかかわりの重要性が理解できる。（71.8%）

⑤ 教師の子どもへの対応の仕方を見て，子どもとの接し方や，コミュニケーションをとることの重要性を理解できる。（65.6%）

(3) 教育ボランティア活動の「受入機関（学校等）にとっての教育的価値」について（自由回答法）

・教職の良さを感じてもらうことで、教員志望の学生を増やすことができる。

・学習応援教室では、教員・支援員・OB 教員も指導を受け持っているが、中学生の指導ができる人が限られている。中学校からの希望が多い数学や理科の指導に大学生が入ってくれることは大変ありがたい。

(4)「学生にとっての教育的価値」について（自由回答法）

・教育現場に入ることだけで、大きな学びが期待できると思っています。

・学生に主体的に運営をお願いできる。学生の活動を通じて，子どもたちが絵本を楽しみ、あわせて保護者支援ができる。

・保護者の方との接し方を学ぶことができる。

・絵本を中心とした子どもの文化や楽しみについて学ぶことができる。

(5) 教育ボランティア活動をする学生に期待すること（自由回答法）

・教師としての使命感や情熱、子どもへのまっすぐな愛情を持ち続けてほしいです。

・学校現場で働く多くの教職員から、教師として必要な資質や能力を学んでほしいです。

・目的意識を持ち、活動に取り組み、現場での経験を将来に生かしてほしいです。

・周りから信頼される人間であってほしいです。

・社会人としての最低限のマナーを守って活動してほしいです。

・教育ボランティアを通して、学生が児童との関わりや学習指導の場面で様々なことを体験し、将来の教職を目指していく上での道しるべとして本活動を活用していただきたい。

・部活動の運営をサポートしていただきとても助かっています。早く現場で活躍してほしいです。

・学校生活全般に関わり、具体的・実践的な児童への指導や支援の在り方を学んでほしいと思います。現場を目の当たりにすることで大変さも実感できると思いますが、それ以上にやりがいを見つけたり将来像を描いたりしてほしいと思います。

・ボランティア活動を通して、社会人に必要なスキル（報告・連絡・相談等）も学んでほしい。また、子どもたちのために何ができるのかという視点を大切にしてほしい。

・学校現場を体験することで教員という職業への理解を深め、教員志望の思いを強くしてほしい。

・積極的に声をかけたり、担当の教職員に必要なアドバイスを受けたり、せっかくの機会を十分に活用し

てほしい。そうすることで活動の学びがより深まったり広がったりすると思う。また、学んだことを生かして、ぜひ教員の道を目指していただきたいし、一緒に子どもたちのために頑張っていただきたい。
・学校現場の様子を知り、教員になる意欲を高めてもらえること。
・子どもとの積極的なかかわりを持つこと。
・積極的な児童支援、教師支援
・教育現場の中に入り、体験することで、教育に対する理解・意欲の向上
・教育現場に気軽に足を運んでほしいこと
・かがやき教室は、様々な理由で学校に登校することが難しい子が通室してくる。その児童・生徒との関りを通して、個々の言葉かけ、寄り添い方、指導法など支援の方法について、理解を深め今後の活動に生かしてほしい。
・中高生が放課後や休日に自由に過ごせる施設なため、中高生に声をかけて話を聞いたり、一緒にボードゲームなどで遊んだり、勉強や受験の相談に乗るなど、中高生と交流していただけたら嬉しいです。
・ボランティアの活動を通して、教員という仕事の内容を知ったり、やりがいに気づいたりすることで、教師を目指してほしい。
・限られた時間ではあるが、教育現場を肌で感じることで教員の良さややりがいを感じ発見してほしい。
・児童との積極的な関りを持ち、疑問や希望があれば教職員には遠慮なく聞いて、視野を広めること。
・子どもたちの姿や教職員の様子から現場の教育の実際を感じてほしい。またこの経験を通して、ぜひ教職を目指してほしい。
・限られた時間の中で学校現場の実情を知るとても良い機会なので積極的に子どもたちや教員とかかわりを持ってほしいと思います。学校側も教職の魅力ややりがいを伝えていければと思います。
・ぜひ多くの学生に教育ボランティアに参加していただき、より多くの学生に教師を目指してほしい。
・教職はやりがいのある仕事なので学校現場での活動を積極的に楽しんでほしい。自分でできそうなことを探して子どもと関わるようにするとより楽しさが発見できると思います。
・学校現場の様子や子どもの実態を感じてもらい、教師としての力を高めてほしいと思います。個別的な指導には多くの教員が必要です。その重要性はさらに高まっていくと思います。学生ボランティアの方々にもぜひさらに多くのお力を貸していただけたらと思います。
・授業の支援級において学習が遅れがちな生徒への対応や年齢の近いことを生かし生徒の学習の意欲付けになってほしいと思います。
・子どもと関わることの楽しさをたくさん感じてほしい。この経験を生かして教職を目指してほしい。
・そよ風教室での活動を通じ、教えることの楽しさや難しさ等を実感し、今後に生かしてほしい。
・昨年度、今年度と地元である南都留地区出身の学生ボランティアと関わらせていただいています。ぜひ地元で教員として共に働いてくださることを願っています。大学の近くにある小学校と異なり、距離が離れているため学生を日常的にまた継続的に受け入れることはできませんが、地方の小中学校での児童生徒への指導に関心を持ち、足を運んでいただけるとありがたいです。学校の数だけ学校文化があります。その土地に根差した文化や歴史の上に学校もあるからです。様々な地域での教育活動にふれてお

くことは役に立つ経験になると思います。見分を広げるためにも様々な場所で教育活動の体験をするとよいと思います。

・公立・私立問わず、最近は多種多様な子どもたちとその保護者が存在します。それに対する対応等は、教科書や本からも知ることはできますが、実際に経験することによって、はじめて自分のこととして身についていくと思います。私たちにはない新鮮な目で仕事をしてもらうことによって私たちもみなさんも成長していけると思っています。

・児童養護施設という特殊な環境に来ていただき大変ありがたく思っております。入所している児童の家庭環境は児童によって違い、複雑です。児童に関わることで苦慮されることも多いとは思いますが、勉強になると思って学園に来ていただけたら幸いです。

・大学から外に出る機会（社会に出る機会）、子どもと関わる機会、現場を体験することができる機会として意欲的に参加し実習やこれからの進路に役立ててほしいと思います。

・生徒にとっては我々と同じ指導者なので、大学で学んできたことや、これまで経験してきたことを実際の現場で実際に生かしてほしいと思います。そして、教師という職業のやりがいに気づいていただければ嬉しいです。

・実際の現場を知り、子どもたちと関わることがまずは楽しいと感じること。

・子ども図書室では，与えられた仕事をこなすのではなく，自主的に新たな取り組みを構想することもできます。学生ならではのアイディアで，子ども図書室の活動の活性化を図ってほしいと思います。

５　学生運営委員会の活動

学生運営委員会は、学生が教育ボランティア活動を自主的に運営することを目的に、平成 22 年度から組織されました。活動内容としては、教育ボランティアガイダンス・教育ボランティアスタートセミナー・教育ボランティア報告会の企画・運営、そして教育ボランティアガイダンスブックの編集を行っています。教育ボランティアの活動の内容を発信し、多くの人に周知してもらうとともに、教育ボランティアを実際に行っている方へのサポートを目標として活動を行っています。

教育ボランティア活動だけでなく教育ボランティア学生運営委員会に参加することで、別の視点から教育ボランティア活動を考えることができます。また、組織の中で大きな行事を企画し、最後までやり遂げるということは大学生活の中で貴重な体験として自分の財産になると思います。

６　受入先訪問

令和５年度は、大学教員からなる教育ボランティア委員会の委員が、受入先関係機関を訪問しました。中央市立田富小学校、南アルプス市立豊小学校の 2 校を訪問しました。詳細については教育ボランティア通信をご覧ください。

教育ボランティアの活動を振り返って

言語教育コース　４年　藤里　杏

私は今回公立小学校で教育ボランティア活動を行った。これまでに附属小学校で教育実習と教育ボランティアを行ったことがあったが、公立小学校の子ども達の様子を知る機会がなかったため、この度は公立の小学校で活動することにした。

このボランティア活動では、初めて公立小学校の子どもと関わり、初めて小学校１年生を担当し、初めて朝の会から下校まで終日活動を行った。このように私にとって初めてのことが数多くあり、たくさんのことを学ぶことができた。その中でも、児童の発達段階に応じた関わり方をすることの大切さについてよく学んだ。初めて１年生の授業に参加してみて特に印象に残っていることが、先生方の子どもの褒め方である。姿勢や声の大きさ、待っているときの態度、行動の素早さなど、子どもがよくできていることや頑張っていることを褒めて認める回数が非常に多かった。あるクラスで先生が「いい姿勢ですね。」と言うと、その周辺にいる児童達が一斉に背筋をぴんと伸ばす場面を目にした。どんな姿勢が褒められるかが分かっていて、自分が直接褒められた場合でなくても好ましい行動を起こすことができる様子を見て、いつもたくさん褒められているのだと感じた。子どもとの関わり方は発達段階によって変化させていくものであり、褒められるために頑張るという状況に陥ってしまうことは学年が上がると好ましくないように考えられる。しかし、１年生のうちにたくさん褒められて心が満たされるという経験は、後に褒められなくても頑張るという、自発的に行動する姿勢に繋がっていくと感じた。

活動へ向かうと「先生今日は〇組？やったー。」「いつ〇組にくるの？」と言ってくれる子ども達がいて、それがさらに活動を楽しくやりがいのあるものにしてくれた。残りの活動でも多くのことを学び、今後に役立てていきたい。

教育ボランティアを通して

芸術身体教育コース　４年　奥山　綺穂子

私は、６月から１２月まで週に１度、甲府市内の小学校で教育ボランティアをさせていただきました。主に、３、４、５年生と特別支援学級の授業補助を行いました。学部４年次となった今年度は、教員採用試験もある中でのボランティア活動となりました。教育実習に匹敵するほど、２次試験の面接の話題になる出来事ばかりでした。また、毎週子どもたちと関わることで、教員になりたいという思いが一層強くなり、試験勉強のモチベーションにもなりました。

３年次に教育実習でお世話になった小学校にボランティアに行っていたため、自分が実習時に担当していた学級の児童たちとも触れ合うことができました。ボランティア初日に、「え、先生どうしているの！！会いたかった！」と抱きついてきてくれた児童や、「先生がくれた金メダルいつも持っているよ！」と言って見せてくれた児童など、私を覚えてくれていた児童がたくさんいて、やはり教員というのは自分が頑張った分だけ自分に返ってくる仕事だなと改めて感じました。

教育ボランティアに参加したことで、学校現場の実態や指導の仕方、学級経営について学び、自分の考えを深められたので、とても良い経験になったと強く感じています。特に、学校にはさまざまな子どもたちがいるのだなという印象を持ちました。外国籍の児童もいました。その児童は、日本語がまだ流暢ではなく、授業内容の理解や友達とのコミュニケーションがうまくできていない様子が見られ、そばについて英語で説明したり、簡単な日本語に言い換えてあげたりしました。今後は外国籍をもつ児童がさらに増えることが考えられるので、そういった児童も学習や友達との関わりを楽しむことができるような支援や配慮ができるようにしたいと思いました。現場に出てからは、児童一人ひとりと真剣に向き合うことを大切にし、子どもと共に成長していくことができる教員になりたいです。

子どもとの関わりを通して学んだこと

幼小発達教育コース　３年　渡邉　梨乃

今年度のボランティア活動において、多くの児童と積極的に関わり、コミュニケーションをとることを心がけて活動した。それは、教育実習を通して、子どものことを観察し、理解することの重要性を学んだためである。子どもの気持ちに寄り添い、学習や生活支援ができるように、児童理解を大切に関わることを意識することができた。

たくさんの児童と関わろうとするなかで、活発的で自分から話しかけてくるような子もいれば、こちらの様子をうかがい緊張しているような子など、さまざまな児童がいることを改めて感じた。積極性を意識するばかりに、たくさん話しかけることが必要であると思いがちだったが、必要なコミュニケーションは、子ども一人一人変わるということに気づいた。例えば、机間巡視をしていた際に、記入したプリントを手で隠し見られないようにふるまう子や、見られていることに敏感になってしまう子に対し、焦らせたり間違いを指摘したりするつもりがなくても、近寄って声をかけることは逆効果であると感じた。この経験から、児童が安心して考えて書き込むことができるように、「一緒に考えてみよう」という姿勢で関わることが大切であると学ぶことができた。また、保健室登校をしていた児童が、先生から教室に行こうと誘われた際、嫌な気持ちになってしまい、顔をうずめてしまう場面があった。嫌な気持ちの要因がどこにあるか確かでないなか、目の前にあった道具で絵を描くことを私自身が始めると、顔を上げ、「何かいてるの」と聞いてくれた。子どもの気持ちに寄り添うまでは難しくとも、その子にとって必要な関わりとは何であるのかを考えて行動に移すことができたと感じる。

このように、子どもの実態や個性は様々であるのに対し、その子に必要な関わりや支援を行えるように、今後もボランティア活動を通して、たくさんの子どもと向き合いたいと思う。

教育ボランティアを振り返って

障害児教育コース　３年　入江　和樹

私は３年後期から公立小学校にて教育ボランティアの活動に参加した。活動内容は主に５年生の児童への授業内の支援であった。小学校実習（１年生配属）での反省を踏まえ、子どもとの関わりに取り組もうと考えていた。しかし、実際に支援に取り組むと難しさを感じる場面が多くあった。５年生の実態としては、周囲の仲間の発言や学級内の雰囲気に流されやすいといったことがあった。一方で児童個人と関わると素直な反応が見られた。実習時とは異なる雰囲気の学級に参加したことで、発達段階の違いによる児童の実態を見ることができた。

ボランティア開始時は児童とうまく関わることができない場面もあった。しかし、授業中の個人への支援や休み時間の会話等を通して信頼関係を徐々に築くことができた。算数に苦手意識がある児童がおり、はじめは私が言葉かけや支援を行った際も反応がなかった。しかし、何度か授業中や休み時間に会話することで、休み時間に「先生、ここが分かんない。」と声をかけてきたり、授業中の支援の際にも理解ができたかどうかを表現したりするようになった。教師などの支援者の立場にある者は、児童に対して粘り強く、真摯に向き合うことが大切であるということを感じた。人懐っこさがある低学年とは異なり、信頼関係が構築されるまでに時間がかかるが、だからこそ得られる人とつながることの喜びがあった。

今後の課題は、信頼関係を保ちつつも、教師として児童の行動や言動をよく観察し、指導すべきことは指導することである。教師の魅力を味わいつつも、教育者としての使命を全うすることができるよう、常に向上心をもって、これからの活動に臨みたい。

教育ボランティアを通して学んだこと

生活社会教育コース　３年　里吉　結子

私は教育実習を終えて、継続して子どもたちの支援を行いたい、先生方からもっと多くのことを学びたいと思い、教育ボランティアに参加しました。これまでに、２年次に参加した教育ボランティアと３年次の教育実習を経験し、自分自身大きく成長することができたと思います。最初はどのように児童に接したらいいのか、なんて話かけたらいいのか分からず、消極的になっていましたが、自分から児童と積極的にコミュニケーションをとったことで、教職の楽しさややりがいに気づくことができ、自分の殻を破ることができたと思います。教育ボランティアの活動では、５年生、６年生の授業補助を主に行いました。学年や児童一人ひとりによって性格が異なり、分かりやすく助けを求めてくれる児童もいれば、下を向いて何も言えずに困っている児童もみられました。自分から発信してくれる児童は補助がしやすいのですが、黙って困っている児童には自分から気づいてあげる必要があるため、児童の様子を注意深く観察していくことが必要だと思いました。気になる児童がいたら、分からない所があるか聞くと、どの児童も「ここが分からない」と答えてくれたので、自分から話しかけてあげることの大切さに気づくことができました。また、学習に遅れが出ている児童に対しても指導を行うことができ、教えること、伝えることの難しさややりがいを実感しました。問題が解けない、理解ができないなど、少し遅れている児童には、よくかみ砕いて、児童が理解しているか確認を取りながら話すと良いと思いました。実際に紙に書いたり、より具体的に例を出しながら話したりすると、理解してくれることが多かったので、自分自身も表面的に覚えるのではなく理解を深めておく必要があると感じました。

ボランティアを通して児童との接し方や指導方法など多くのことを学ぶことができました。

教育ボランティア活動を通して

生活社会教育コース　３年　田中　和実

今年度も、１年生の時から引き続いて甲府市内の小学校で教育ボランティア活動をさせて頂きました。今年度は２年生に入り、これまでの教育ボランティアでも、教育実習でも低学年の支援には入ったことが無かったので、多くのことを学ぶことが出来ました。

活動を行う中で、１番支援の入り方に悩んだのが、意見の対立から泣いてしまう児童がいた時です。今までの活動でも、意見の対立はありましたが、泣いてしまったのは初めてだったので、まず「どうしたの？先生でよければ聞かせて欲しいな」と事情を聞いて、お互いがどうしたかったのかを確認するよう意識しました。それでも、「でも譲るのは絶対いや。じゃんけんもしたくない。」「私だって譲りたくない」となってしまい、中々私では収めることができず、担任の先生にお願いすることがありました。このグループでは意見の対立が多々あり、最初は上手に対応できませんでしたが、段々児童との関係ができていくにつれ、あまり長引かせずに活動に戻ることができるようになり、児童の気持ちをしっかり受け取ることの大切さを改めて感じました。丁寧に話を聞いていくのと同時に、譲ることの大切さを伝え、トラブルを成長に繋げられるような支援もこれからさらに意識していきたいと考えています。

また、今年度はより沢山関わる機会を持つために、より積極的に動くことを意識しました。「〇〇さんありがとう」や「〇〇くんはどんなことが好きなの？」と名前を入れてから話しかけるようにすると、低学年の積極性もあり、沢山児童から関わってくれるようになりました。「今日二重とび２回跳べた！」や「絵が上手に描けた！」などできるようになったことを沢山教えてくれて、毎回とても楽しく活動することができました。今年は児童と関わる機会が多く、教育実習では、今までの学びを活かすことができ、教育実習後には実習で学んだことを実践することができました。この経験を採用試験にしっかり活かしていきたいです。

教育ボランティアを振り返って

科学教育コース　３年　勝又　海優

今回の教育ボランティアは、初めての部活動の補助で、教育実習の時とはまた違う一面を見ることができてよかった。教育実習では学習面をメインに力をつけていくので、部活動ではどのような指導をしたら良いのかをあまり知ることができないけれど、子どもたちへの声かけや練習メニューの工夫など、教育実習ではあまり教えていただけないことを今回知ることができてとてもよかった。

部活動の指導は授業とは違って、一人ひとりにお手本を見せながら細かく教えることができるので、１人１人にしっかりと向き合うことができたと思う。そのおかげか教えた後に、「先生、さっき教えてもらったのできるようになりました！」とか、「先生、これどうやったら上手くできますか？」など子どもたちの方から声をかけてくれたり、質問をしてきてくれてとてもいい関係を築くことができたし、子どもたちの成長を直近で感じることができて、とても嬉しい気持ちでいっぱいになった。それだけでなく、子供の成長をすごく感じられるため、さっきまでできなかったことができるようになっていると、教えてよかったなと思うことができた。

その反面で、練習メニューをただこなしているだけの子も多く見られた。教員は授業と同じく、部活動でも子どもたちが主体的に学習に取り組めるような工夫をしていかなければいけないなと思った。部活動での頑張りや結果は自分の財産になるし、コツコツ頑張るということをしていけば、部活動以外でもその力は生きてくるので、子どもたちが部活動を主体的にできる環境づくりを整えていくことが大切になってくると思った。

教育ボランティアを通して

芸術身体教育コース　３年　穎川 桜子

私は、山梨市内の小学校で、週に一度、朝の会から４校時までの間、教育ボランティアとして活動をさせていただいた。５年生を担当させていただき、主に担任の先生の補助と、授業補助を行った。

活動の中で一番印象的であったことは、習字の授業で、私が児童たちの前で、アドバイスをしたことである。これは、習字の授業を担当している教頭先生と、担任の先生が、私が小学生の時の担任であり、書道を長く続けてきていることを知っていて、このような機会を与えてくださった。私自身、国語の免許を取得予定で、習字や書道の教育法の授業を受講しているが、教育実習等で実際に子どもたちを前にして教えたことはなかったので、不安もあった。しかし、これまで自分が経験してきたことを子どもたちに伝えられるという素敵な機会をいただいたため、子どもたちにとって実りのある時間になるよう、伝え方を考え、当日を迎えた。うまく伝わるかどうか、不安もあったが、私が前で話したポイントを、児童一人一人がまっすぐ前を見て、私の話を真剣に聞いてくれる様子に感動した。また、その後、児童たちが実際に書く時間になると、私の言ったことを意識して子どもたちが取り組んでくれた。授業後に、私のところに来た数人の児童が、「いつもより上手に書けた！」と伝えてくれ、非常に感動した。

この出来事を通して、私は、教員という仕事は、自分がやってきたことや好きなことを活かすことができる職業であると気づくことができた。それと同時に、自分があまりやってこなかった教科の教材研究は、劣ることがないようにしっかりと行うことが大事であることにも気づくことができた。その分大変なこともあるが、子どもたちは、教師が思いを持って授業を行うことで、その思いを素直に受け取ってくれる素敵な仕事であると感じた。これからもさまざまな分野を学び続けながらも、特技や趣味を活かし、児童たちが前向きに取り組んでくれる授業を作っていけたらと改めて実感した。

教育ボランティアを通して得たこと

障害児教育コース　２年　志村　那祐花

私は南アルプス市内の小学校で教育ボランティアに参加した。主に情緒障害の特別支援学級における授業補助を行い、通級による指導や普通学級で支援が必要な児童の授業補助もさせていただいた。

教育ボランティアを通し、私は児童とのかかわり方を学習することができた。特に印象に残っているのは、初めて参加した日は「来なくていい！」と石や砂を投げるほど拒絶を見せていた児童が、一緒に遊びたいと言ったり手をつないだりしてくれるようになったことだ。絵をプレゼントしてくれたり、「先生明日来る？先生が次に来る日に合わせて、キャラクターの靴下はいてくるよ！」と次に会うことを楽しみに思ってくれたりした時は、特にやりがいを感じられた。このように少しずつ心を開いてくれたのは、毎回の教育ボランティアで児童の会話に耳を傾けたり、活動を共にする中でたくさん褒めたり認めたりする姿勢でいたことが効果的だったのではと考える。児童の信頼感が高まり、活き活きとする様子が見られたことは、非常に嬉しいことでもあり、来年の教育実習に向けて児童とのかかわり方に不安を感じていた私にとって、コミュニケーションに自信が持てるきっかけにもなった。

また、障害特性に対する先生方の具体的な支援方法を知ることができた。学習スペースと自由スペースの空間づくりや視覚情報の活用など様々な配慮がされていた。障害児教育コースとして、大学で学んだ支援例が実施されているのを現場で見ることができ、いかに効果的であるかを学べると同時に、それらの支援方法が効果を示さないような場面にも直面した。例えば気分のメリハリをつけることが難しい困難さに対し、タイマーを設定して終わりを明確化していたものの、時間になっても気分が変えられずずるずると遊ぶことをやめられないということが多く見られたことである。大学の学びを単に習得するのだけでなく、そこからさらに自身で考えを深めなければならないと実感した経験にもなった。

教育ボランティアを通して学んだこと

障害児教育コース　２年　三浦　千紗葵

私は山梨大学附属小学校で教育ボランティアをさせていただきました。一年間を通して五年生を担当し、各教科の授業だけでなく、学級レクリエーションや給食、学年集会など様々な経験をすることができました。

一年間の活動を通して、大きく分けて二つのことを学ぶことができたと考えています。一つ目は、子どもたちとの接し方についてです。教育ボランティアを始める前までは、小学生の子どもたちと関わるといった経験が少なく、不安を抱えていました。そのため、活動の始めの方では、自分から積極的に話かけたり、授業中に机間巡視をして声をかけたりすることができませんでした。しかし、活動を重ねていくうちに児童とのコミュニケーションの取り方を学ぶことができ、例えば、授業に集中できていない子には担任の先生の指示をもう一度説明してあげたり、問題を解きことにつまずいている子には考え方のヒントになるような声掛けしたりするなど、授業補助としての役割を果たせるようになったと感じています。また、算数の問題解説が児童にうまく伝わらず「ここはどういうこと？」と児童を困らせてしまった時があったので、どのようにしたら分かりやすく教えられるのか、自分自身で反省し改善していく必要があると感じました。二つ目は、授業中における現場の先生方のふるまいです。教師として、どのような点に気をつけているのか、授業をどのように展開していくのか、実際の教育現場に行かなくては分からなかったことを知ることができたという点が大きかったと感じています。さらに、ICT の活用について授業を通して新たな発見が多く、自分自身の学びに繋がりました。

教育ボランティアを通して多くの子どもたちや現場の先生方に出会うことができ、とても貴重な経験ができたと感じています。来年度からもここで得た学びを生かして頑張りたいと思います。

教育ボランティアで学んだこと

言語教育コース　２年　岩波　奈那

教育ボランティア活動を通して、生徒が自ら気づき学ぶことの大切さを学んだ。教員が、１人で授業を進めるのではなく、子どもたちの学びから授業をすることが大切であると思った。理科の実験結果から気づいたことを生徒に聞き、それをもとにまとめを書いたり、道徳の授業では、子どもたちの経験から関連付けて物語の解釈を進めて行ったりしていた。特に、２年生の道徳の授業で、「宝物は何か」という内容の教材を使った授業をした際に、１人の生徒が、「自分が大切と思うものはみんな宝物なんじゃないか」という発言をしていたのが、印象に残っている。その発言が、クラスの中で出ていた意見をまとめていて、教材が伝えようとしていたことをクラスのみんなが理解できていたように感じた。教員が、そういった言葉を発するのではなくて、生徒が発することでより、他の生徒も納得するし、学びにつながると思った。したがって、生徒自らの気づきを大切にすることが重要だと学んだ。

また、教員の仕事は教えることだけではないということも、肌身をもって感じ学ぶことができた。校内研究の資料作りや、学校で飼う動物の交渉、宿題のチェックなど、いろいろな仕事があるということを学んだ。そんな中で、授業を考えなければならないから大変であると思った。さらに、休み時間が５分しかないため、授業が終わったらまた次の授業というように、教員の休み時間がほとんどないということも、教育ボランティアをしたことによって知ることができた。自分が小学生だったときに、中休みに一緒に遊んでくれた先生は、自分の唯一の休憩時間を削ってくれていたということを知り、いまさらながら感謝することができた。

子どもたちと関わる中で、小学生もしっかりと自分の意見を持っていて、教員が発する言葉もしっかりと理解できるということも学ぶことができた。

教育ボランティアを通して学んだこと

科学教育コース　２年　織田　夏帆

私が教育ボランティアを通して学んだことは、授業内での子どもと先生とのコミュニケーションの大切さである。教育ボランティアに行ってとても印象的であったのが、中学３年生の数学の授業に参加した際に、そのクラスがとても元気で活発な雰囲気で授業を行っていたことであった。はじめは、少し騒がしすぎる授業なのではないかと思い、もう少しメリハリをつけさせるよう指導した方が良いのではないかと感じていた。しかし、授業を見ていると活発であるからこそ、先生と生徒の対話は多く、生徒同士の意見共有も積極的に行うことができていることに気付いた。実際に、私が教育ボランティアとして授業に参加させてもらった際は、生徒から様々な質問や声掛けをしてもらった。机間巡視の際に、「この問題の解き方が分からないです。」や「これはどうやって解くのですか。」、「この解き方はあっていますか。」というような質問をよく受けた。数学が苦手な生徒が多い中で、分からないことをそのままにせず、先生に聞く習慣ができていることや自分の考え方が合っているか聞くことは学習を行う上でとても重要であると思う。分からないことや間違うことがあっても良いのだということを先生、生徒が理解しており、クラスの雰囲気もそれを表していたと感じる。また、「先生は何年生ですか。」というような授業と関係のないことを聞いてくれる生徒も多かった。授業に関することだけでなく、たわいもない話をすることで生徒たちとの距離は少し縮めることができたと思う。

このように生徒みんなが発言しやすく学習しやすい環境をつくるためには、先生と生徒のコミュニケーションを多く取ることが大切なのだと気付くことができた。

教育ボランティアを通して考えたこと

科学教育コース　２年　小池　直幸

私は今回およそ一年間の教育ボランティアを南アルプス市内の中学校で行わせていただき、非常に多くのことを学ぶことが出来たと思う。なかでも最も大きかったのは子供たちとの関わり方を知れたことである。私は今まで中学生はかなり幼いというイメージがあった。しかしながら、実際に中学校に行って子供たちと触れ合うと彼らはすごく大人で、自分のことや社会のことをよく理解していた。加えて、「小池先生」と先生として扱われるのも自分としては初めてであり、それも最初は非常に新鮮であった。行くたびに喜んでくれたり、楽しそうに生徒自身のことを話してくれたりする姿を見て、教育的な視点というよりも、一人の人間としての充実感を覚えた。勿論、それだけを感じたわけではない。教育的にも様々な考察をすることが出来た。その中で一番感じたことはＩＣＴの普及についてである。私は何度か山梨大学付属中学校にも実習で赴いたことがあったが、そこでは一人一台端末を用いて全員がほぼ完ぺきに機器を使いこなし授業を進めていた印象であった。しかしながらこの中学校ではＩＣＴを必要な場面では使っているものの、その回数は圧倒的に少ないと感じた。また、その習熟度もかなり厳しい状態であり、サポートに苦労を要した記憶がある。このように地域や学校においての情報機器の差を感じることが出来、地方の学校における情報教育の進め方についてこれから考えていきたいと感じた。そして合唱や学園祭等の様々な行事の準備にも携わらせていただいたが、自分たちのときとは大きな違いを感じた。より安全性が高く子どもたちを守る方向へと変わっている印象だ。私たちは教員になった時自分の経験をもとにして指導してしまいがちであるが、現場は数年前とは激変しており、自分たちの学生時代の経験は役に立たないということを痛感した。まだまだ感じたことは多くあるが、以上が私が教育ボランティアで感じたこと、考えたことである。

生徒の授業を受ける態度へ向き合う

芸術身体教育コース　２年　弘内　那乃映

以前にも教育現場での活動をしたが、今回は大学生になって初めて足を踏み入れた公立学校であるため、いつにもまして緊張していた。附属小学校では１つのクラスについて活動をしていったが、今回は美術の授業につかせてもらえることになった。毎回同じクラスを見ることに変わりはなかったが、美術をメインに見れて今後の授業づくりに役に立った。また、附属とは違った公立ならではの生徒の「差」を肌で感じることが出来た。附属では見れなかった「授業中に立ち歩く生徒」を見ることが出来た。私は公立の中学校に行きたいと考えているため、こういった生徒の指導ができるのは大きな収穫だった。

指導をする際、まず初めに活動の様子を聞いてみた。該当生徒は「飽きた」「やり方が分からない」「もう完成でいい」と口々に言っていた。とりあえず今やっている活動について考えられるように、作品の工夫している点やなぜその色にしたのかなどを聞いてみた。それによってどんな作品が作りたいか考えることのできた生徒もいたようで、立ち歩く生徒は少しだけ減った。次に「飽きた」と言いふざけ始めてしまっている生徒に声をかけた。先ほどのような声掛けではびくともしなかったため、今度は「ずっと近くで立っている」ということをしてみた。少なからず威圧感はあったと思うが、生徒は周りと話しながらも手を動かすようになっていた。その際出来るだけ怖がらせないようにと、近くの生徒の作品に対して「色がなんだかバレーボールみたいだね。部活はバレー部？」と聞くと「バレー部じゃない！え、でも確かにバレーボールの色じゃん！」と笑っていた。それで場が和んだようで話しながらも手を動かし、こちらにも少しだが相談してくれるようになった。

もともとのクラスの特性ではあったのだろうが、授業に集中できず飽きてしまうという生徒にアプローチできたのはボランティア活動で得た大きな経験となった。

教育ボランティアの活動を通して考えたこと

障害児教育コース　１年　岩澤　胡春

私は後期に笛吹市内の小学校で教育ボランティアの活動に参加させていただきました。現在はあまり児童生徒に関わる機会が多くないことから、観察実習や教育実習の本格的な活動が始まる前に少しでも経験を積んでおきたいと考え、参加しました。

初めは緊張してしまっていた上に児童との関わり方が分からなかったため、これからのボランティア活動に不安を感じていました。しかし、児童から話かけてもらう機会や先生方の関わり方を見ることを通して少しずつコツをつかんで自然に関わることができるようになりました。関わっていくうちに「先生遊ぼう」と休み時間に遊ぶ約束をしてくれるようにもなり、関係性が作れていることが実感できました。

また、児童から「先生」と呼ばれ責任があることを実感したとともに、ここではボランティアだからと謙虚になりすぎてはいけないと思いました。そこから自分の言動や行動が良くも悪くも影響を与えるという自覚をもって活動に取り組むこと、積極的に関わることをより意識できるようになりました。自分の意識を変えてみると子供達の明るい表情が見られもっと関わりたいと思えました。

特に、先生によって学級内の雰囲気が全く違っていたことが児童との関わり方という点で興味深く思いました。前提として学級内での個性はばらばらですが、穏やかに接する先生のクラスの児童は穏やかで、熱血な先生のクラスの児童は元気な印象が残りました。ここでも児童の言葉遣いに注目してみると話し方や口癖のようなものまで似ているときもありました。このことから、クラスの雰囲気はいままでの担任と児童の関わり方を示しているのだと考えました。教員と児童の関わりは学校現場で重要なことで自分が現場に出たときの関わり方を考える良い機会になりました。

教育ボランティアを通して

障害児教育コース　１年　小泉　亜優美

私は、山梨大学附属小学校で小学４年生の学習補助の教育ボランティアをさせていただきました。実際の学校現場で子ども達と関わることが新鮮であったと同時に多くの学びを得ることができました。

私は跳び箱の補助をしたことが印象に残りました。跳び箱の開脚飛びを練習している児童の補助を行いました。最初はどのように補助をしたらよいか戸惑ってしまいました。しかし先生が児童に対して具体的なアドバイス以外にも惜しいところを励ますような言葉や少しでも成長が見えた時に全力で喜びながらほめる姿勢を見て自分にもできることは沢山あるということを学びました。実際に毎回子どもが飛んだ後に何かしら言葉をかけるようにしました。成功できなくても「惜しかったね。でも今までで一番跳び箱の端の方まで飛べていたよ。」とできた部分に着目した言葉を意識しました。最終的に児童が飛べるようになったのを見て非常に嬉しくなりました。児童が苦手なことに挑戦するときにはやる気が出るような言葉が大切だと学びました。また、台上前転の練習をしている子の補助も行いました。その子は飛ぶときに「怖い。」と言い恐怖心から飛ぶことができませんでした。その言葉を聞いた時にどのような言葉をかけるべきか迷いました。そして「大丈夫だよ。何かあっても支えるからね。」と声をかけましたが、結局飛ぶことができませんでした。しかし、先生が手で体を支えた時はできていたのを見てやはり信頼関係の差を感じました。その子ができるには具体的にどのようなことが不安なのか聞いてみるなどコミュニケーションをとることが必要だったなと学びました。このような経験から、できなかった事実ではなく、成長した部分に対して言葉をかけることが大切だと感じました。また、どのような活動に参加するにしても、子ども達や教師との信頼関係を築くことが求められると考えます。そのため、授業中や休み時間に自分から積極的に児童と関わるようにしていきたいです。

教育ボランティアで学んだこと

障害児教育コース　１年　小松　遥

私は後期から、初めて昭和町内の小学校で教育ボランティアに参加しました。毎週水曜日に終日、様々な学年の授業補助を行いました。現在では子どもと関わる機会が少なく、子どもたちと早く関わりたい、また、教育実習に行く前に教育現場に参加したいと思い、参加しました。

この活動の中で学んだことや、新しい発見は多くありました。初めのうちは、自分から話しかけてもよいか分からなかったり、本当にボランティアとして助けになっているのか分からなかったりと、迷うことが多くありました。その中で先生たちに「もっと積極的に話しかけてもいいよ」などのアドバイスをもらうことや、児童たちから「先生！」などと話しかけられることで、徐々に自信や自覚が芽生えていきました。また、子どもたちの成長の早さにも驚きました。ある時、休み時間中にドッジボール大会があったのですが、１年生で足の怪我をしている車いすに乗っている児童がどうしても大会に行きたいと言い、車いすから何度も降りようとしていたので、その子が安静にしているように一緒にドッジボール大会を見学していました。その中で初めは「大会に行きたい」と言いなかなか話を聞いてくれなかったのですが、根気強く「大会に出てさらに大きいけがをしてしまったら悲しい」と説得したら、話を少しずつ聞いてくれるようになり、最終的には「今回は我慢する」と言っていました。担任の先生に休み時間どうだったのと聞かれたときは、児童は私との話の内容を楽しそうに語ってくれていて、こんな短時間の子どもとの関わりで成長を見ることができた気がして、驚きとうれしさがありました。

教育ボランティアでは実際の教育現場でしか学ぶことができないと感じることが多くあり、教師を目指すうえでの貴重な経験となりました。

子どもたちとのかかわり方

山梨県小学校教員養成特別教育プログラム　１年　上野　空

今回の活動から、子どもたちの成長を肌で感じることができたことが一番の思い出であり、貴重な経験であったと感じている。私は情緒の特別支援学級の４年生と６年生の男の子二人と２年生の女の子と主に関わった。始めは私自身も緊張していたし、子どもたちも警戒していたので、まずは同じ目線で子どもたちの興味のあることに自分も興味を持ってみようと考えた。男の子たちは昆虫と魚を教室で飼っていたので、「これはなんていうの？」「どこで拾ってきたの？」と少しずつ距離を縮めていこうとした。すると、私が質問する度にとてもうれしそうに教えてくれて、私に見せてくれる笑顔が日に日に増えていくのが感じられた。特に、夏場は「先生も一緒に行こうよ！」と一緒に川に魚を捕まえに誘ってくれることが多く、特別支援学級だからできた貴重な経験をすることができた。しかし難しいと感じることも多くあった。ある子と一緒に漢字プリントをやる際、ひらがなを見ても漢字が全く浮かんでこないことが多く、それをどう教えていくべきなのかがなかなか分からずにいた。こう書くんだよ、と私が書いた漢字をなぞらせてから自分で書くようにしたり、漢字を見てひらがなを振るときにはジェスチャーでヒントをあげたりしたが、果たしてそれは本当にこの子の学びにつながっているのか、本当に意味を理解して覚えるにはどうしたら良いのか、はたまた、明確な理解より目の前のタスクをこなしていくことに重きを置いていくべきなのか…考えれば考えるほど、関わり方に課題が見つかった。この課題は先生方には聞かずに、自分で自分なりの答えを探していきたいと考える。これからの活動を通して模索し、教員になってからも自分なりの関わり方を考え続けていきたい。「先生こっちに来て教えて！」「これ見てて！」と活発な子どもたちの様子に元気をもらい、子どもたちの存在は教師という職にとって原動力であると感じたこと、そして授業では子どもたちが理解しやすい解き方を考え、それを言葉で伝えることの難しさなど、様々な視点から感じたことをこれからも忘れずに活動していきたい。

中学校の現状を知ることができた経験

科学教育コース　１年　中込　茉優

私は教育ボランティアを通じて、たくさんの学びがありました。まず、学年によって雰囲気が全く違うことに驚きました。自分自身が中学校へ通っていたときは、自分が所属する学年のことしか分かりませんでしたが、教育ボランティアという立場で全学年を見て思ったことです。これは、その学年に所属する教師の影響がすごくあると思います。このことは、授業にも反映されていて、例えば、１年生の数学の授業では教科書が紙媒体でなく、すべてタブレットで学習していたことに驚きました。一方で３年生の数学の授業では、紙媒体の教科書を使っており、手を挙げて発言するなどの一体感に感動しました。しかし、どの学年にもクラスの雰囲気に関係なく、自分が分からない時に分からないと言えない子が多いということを感じました。私が、１年生のテスト勉強の時間に補助に入った時に、元気な男の子が「先生、ここ分からないから教えて」と言ってくれました。その子はつまずいたタイミングで、その場で質問してくれました。このように、分からないところをすぐに聞いてくれる子は少ないことが現状にあると考えます。そのために、私の立場である教育ボランティアが必要だと思いました。授業中は、先生が前に立って授業をする立場にあるので一人一人見て回ることができません。しかし、同時についていけない生徒も存在します。私は、３年生の数学の授業中に、いつもおとなしい女の子の手が止まっていることに気がつきました。「どこか分かんないところある？」と尋ねると、黙って教科書の指を刺してくれたので、その子の疑問を解決することができました。一人一人の性格によって、関わり方を変える必要があるが、授業中はこのような対応を先生一人で対応することは難しいです。このような現状を少しでも改善していくために、教育ボランティア活動があると思います。将来の経験として、この状況を１年生のうちに知ることができて良かったです。

教育ボランティアを通して学んだこと

山梨県小学校教員養成特別教育プログラム　１年　松本　樹々

私は母校である甲斐市内の中学校で教育ボランティアを行った。教師に近い教育ボランティアという立場で訪れた教育現場は、中学生として通っていた時とは違う新たな発見があった。活動は主に、教室で授業を受けられない子の学習支援「自学教室」と部活動指導の見学、学校行事への参加だった。毎週水曜日の午後だけという限られた時間ではあったが、教師の仕事の様子や生徒の考えること、私たち教育者がそんな子どもに何ができるのかを考える機会になった。

まず教育ボランティアで驚かされたのは、教師に限らず年上の人が児童生徒に与える影響の大きさである。私が小学校高学年の時に遊んであげた子が生徒にいて、私に気づいて声をかけてくれた。まさか覚えているとは思わなかったし、やさしくしてくれたのが記憶に残っていると言われたときは驚いた。私自身も中学生の頃に教えてもらった先生との再会を通して、何気ない言葉が今でも心に残っていたことに気づかされ、教員という日常的に子どもに関わる仕事をする中で発する言葉の重みに気づいた。

また活動を通して感じたことは、学校というコミュニティが閉じた世界だったということだ。教員に近い立場で訪れた時に見えるものの違いに驚いたこともそうだが、自学教室などの困難さを感じる子どものいる「場所」はあってもそこで受けられる支援の狭さのようなものを感じたからだ。教育ボランティアしかいない部屋で、リモートで授業を受ける。見ていたのはほんの一場面だが、大学の講義やボランティア報告会で聞いたような数々の支援体制が使われていない、使えていない状態は、教師になる上で変えていかなくてはいけないと感じた。それと同時に、教員だけで考える難しさ、教育が開かれるべき理由が少しわかった。教育ボランティアは授業だけでは学べない、現場ならではの困難さや難しさを体験できる、教師になるための大きな一歩となる活動だった。

◇学びの振り返りシート

学年	3年	コース	障害児教育コース
学籍番号	E2102102	氏名	櫻本絢芽

1　活動場所　甲斐市立玉幡小学校

2　主な活動内容　　学習補助

3　教育ボランティア活動を進めるにあたっての決意（目標）を記述してください。

昨年に引き続き子どもへの学習補助を行う中で、子どもの「わかった」「できた」を支える支援ができるようにする。

4　今日の活動で一番心に残ったことを記述してください。

4月　17日	昨年度に引き続き2年生の学習補助に入ることになった。クラスは変わらないが教室が変わり1年生も入学したことで、2年生の子どもたちが少し大人になったように感じた。
4月　24日	算数のプリントをしているところに補助に入った。他の子の答えを写してしまっている子がいたので、隣について一緒に一つずつ取り組んでいくと最後まで自分の力でプリントを終えることができたので良かった。
5月　1日	3組での給食は担任の先生が変わってから初めてだったが、少しでもおかわりをしようという意識が子どもたちの間でもあって積極的におかわりをしていて残飯が少ないのがとても良いなと感じた。
5月　8日	テスト直しが終わっていない子の補助に入った。解答をそのまま写しているだけになってしまわないよう、「ここはこうだからこうなるね」など声かけを意識した。その後の漢字ドリルでも、ヒントを出しながら取り組めた。
5月　16日	掃除の時間に1階の廊下掃除の児童を見ていた。普段ふざけてしまうことが多い子もきちんとほうきに取り組んでいて感心した。時間が少し伸びてしまったが、最後までしっかりと掃除することができて良かった。
6月　26日	教育実習を挟んだため久しぶりのボランティアだった。2組に外国籍の児童が転校してきていてその子はスペイン語しか話せず、実習先にも外国籍の子がいたが英語だったので、それより関わりが難しい。
7月　3日	外国籍の子と算数のプリントやひらがな練習帳をした。算数では、算数的な考え方はできるのに、問題の意味が上手く伝えられないことで答えにつながらないことがもどかしかった。ひらがなは発音を一緒にできた。
7月　10日	外国籍の子が「蝶々」をスペイン語で何というか教えてくれた。もう一人のスペイン語を話せる子が通訳ができるのがすごいと思った。先生も翻訳アプリを使ったりして対応していて、対応の仕方が勉強になる。
10月　23日	誕生日カードにメッセージを貼る手伝いをした。先生方は授業だけでなく、このような作業的なことを普段時間を見つけながらしていることを実感し、教員は時間の使い方が大切だと感じた。
11月　6日	今まで児童のやることが終わってしまったら読書か自由帳かが多かったが、今ではそこにタブレットの選択肢が入り、タブレットでは九九やプログラミングなど様々な学習ができ、その活用の仕方を体感した。
11月　13日	3組で音楽の授業でピアニカをしていたときに全然弾いていない子がいたので一緒に弾いた。その子の手の上に手を重ねて指を動かすと、周りと同じペースで弾くことができ、その子も自分で弾こうとするようになっていたので、少しは役に立てたかなと思った。
11月　27日	今日は4校時は特別支援学級の学習補助に入った。3年生の子と一対一で本読みと漢字ドリルをした。本読みではその子は積極的に文字を読んでいた。漢字ドリルではただ書くだけでなく、ドリルに載っている単語の意味を取り上げたりすることを意識した。
12月　4日	生活科の発表の時間に席を立ってしまう子がいたので横につくようにした。隣にいてその子の話を聞くことで席に着くことができていた。他のことに意識が向いているようでも、発表の内容を聞いているようで、一見だけで捉えない大切さを感じた。
12月　11日	国語の説明文で馬のつくり方の内容のところで、実際にそれをつくっているところの手伝いに入った。どんどん作れる子と、紙を切る長さを間違えたり、ホッチキスに苦戦する子など個人差が大きいことを実感した。

5　あなたの決意（目標）を振り返り、自分が変わったと思う点があれば、何がどのように変わったのか、また、そのことについてどう思っているのか、記述してください。

昨年度から教育ボランティアを継続してきて、子どもたちの苦手なところやつまずきにより気付けるようになり、スムーズに支援にはいることができるようになったと感じている。クラス全体に対する指示のなかで一緒にそれができなかったりしたときに、そばに行き少しでも一緒に行えるように取り組めたときはボランティアをしている意味があったなと感じた。また、学習活動のなかでただ書く、ただ写すだけにならないように、なぜそれがそうなるのかや関連することなどを隣から声をかけたり、その子の力を認められるような声かけをしたいすることを意識することができたと思う。また、子どもに対してだけでなく、ボランティアの活動のなかでは、丸つけや掲示物の掲示など忙しい先生方の手伝いをすることで、先生方から感謝していただけて役に立てたことを嬉しく感じるのともに、教員という仕事の授業以外でのやらなければならないことなどを間近に見ることができた。

6　活動を通じて、あなたが学んだことやこれからのボランティアで力を入れて取り組んでみたいことを記述してください。

今年度の教育ボランティアを通しては、昨年度に引き続き小学校での子どもたちの様子や教員の仕事についてなどを間近に知ることができたのとともに、教育実習を経たことでより教員の立場になって学校現場を見ることができるようになったと感じている。教育実習で授業をつくる大変さを実感したからこそ、授業を毎日行っている先生方を尊敬するのと同時に、授業の進め方や指導の仕方はとても勉強になった。また、外国籍の児童について実習でも学んだことや考えたことがあり、教育ボランティアでもそのような子どもと関わることができたのは貴重であった。来年度も教育ボランティアを継続して、さらに次の年には自分が教員になることを意識して活動をしていきたいと考える。

7　その他（ボランティア活動に関して何かありましたら自由に記述してください。）

◇学びの振り返りシート

学年	2	コース	障害児教育コース
学籍番号	E2202013	氏名	塚田優太

1　活動場所　附属小学校

2　主な活動内容　　学習生活指導

3　教育ボランティア活動を進めるにあたっての決意（目標）を記述してください。

積極的に子ども達とふれあいながら、児童の実態や教育環境についての理解を深めたい。

4　今日の活動で一番心に残ったことを記述してください。

６月　６日	体育のマット運動の授業でNHKForSchoolの動画を用いて説明していた。
６月　７日	道徳の授業の話し合いの中で、お母さんと同じようにおばちゃんも大変だから頑張れと応援する気持ちや、家族愛について考えることが出来ていた。
６月　１３日	4年1組で二度目の給食完食に挑戦したが、惜しくも残ってしまった。
６月　１４日	「はかせ」の頭文字を取って「はやくて、かんたん、せいかくに」計算することを意識させていた。
６月　２０日	給食の片付け時に一つも手をつけていない唐揚げを残した子に先生が「苦手でも一口！食べれないなら他の人にあげる！」と完食への意識指導をしていた。
６月　２１日	公開授業で来賓する先生に配る為の資料作りの手伝いをした。
６月　２７日	書写の授業ではじめに手をリラックスさせる為に20秒間ブルブル振る運動をさせていた。
７月　１１日	社会の授業で山梨の良いところor節水のポスター作りを「Canva」というアプリで児童各々で作業していた。
７月　１２日	理科の授業の中でNHKForSchoolの動画から星の明るさの違いや星が動いて見えるけど地球が動いていることを確認していた。
１１月　２２日	体育のTバッティングの最終戦で団結した守備や初めて4点取れた子などを観て児童と一緒に喜びを共有することが出来た。
１１月　３０日	国語の授業で「Canva」のスライドに音声を貼り付けて、文字と写真だけでなく音声でも説明出来るようにしていた。
１２月　７日	算数の授業でかけ算を解く時の法則(足し算法則、チェンジ法則、交換法則、たすたす法則)をみんなが活用出来るように説明し合っていた。
月　日	
月　日	

5　あなたの決意（目標）を振り返り、自分が変わったと思う点があれば、何がどのように変わったのか、また、そのことについてどう思っているのか、記述してください。

昨年度は、児童との関わり方について難しく考えてしまい、無視されたらどうしよう、嫌われたくないという思いから、机間指導の際に話しかけやすい特定の児童の方ばかり選んで指導してしまいました。そこで、今年度の活動ではどの児童でも話しかけにいこうという強い思いで取り組んだところ、より多くの児童と関わりを持つことが出来ました。ボランティアと児童という風に難しく考えるのではなく、人と人との関わりとして捉えることで、豊かな関わりを得ることが出来ました。この成長は子ども達とのコミュニケーションだけでなく、友人や家族、周りの人たちとも豊かな関わりを持てるようになりました。また、自分がミスをした時も考え過ぎずにすぐに切り替えれるようになったり、他の誰かが間違えたりしても責めたり怒ったりせずに豊かな心で認めれるようになったりしました。

6　活動を通じて、あなたが学んだことやこれからのボランティアで力を入れて取り組んでみたいことを記述してください。

基本的な知識面や技能面の学びも有りましたが、その中で特に感じたことは、教員それぞれ自分にあった指導法、関わり方を持っていることです。私はこれまでこの場面にはこの対応をするのが正解、正しいと一問一答形式で考えていましたが、教育ボランティアで実際に見させてもらったところ、同じような場面でも異なる対応の仕方をしており、指導・対応には多様な手段が有ることを実感することが出来ました。これまでの教育ボランティアの活動先は附属小学校で、附属小学校の児童や先生、施設についての理解を深めてきました。しかし、教育ボランティアの活動体験交流会で意見交換をした際に、附属小学校と公立の小学校の違いの大きさに驚きました。そこで、来年度の教育ボランティアでは公立の小学校で活動して、公立の小学校の実態や附属小学校との違いを実感したいと考えています。

7　その他（ボランティア活動に関して何かありましたら自由に記述してください。）

◇学びの振り返りシート

学年	2	コース	生活社会教育コース
学籍番号	E2204015	氏名	原朋伽

1　活動場所　NPO法人河原部社　ミアキス

2　主な活動内容　　中高生との交流、コミュニケーションをとる

3　教育ボランティア活動を進めるにあたっての決意（目標）を記述してください。

積極的に自分から話しかけに行く。スタッフの方との情報交換を密にする。

4　今日の活動で一番心に残ったことを記述してください。

10月6日	箏曲部に通っている高校1年生の子が転部したいと悩みを打ち明けてくれた。私も高校生の時に転部経験がありその時の話をした。自分の経験をしたことが行かせたのでいろいろなことを経験したいと考える。
10月9日	中学3年生の受験生に対して高校生が受験について話をしてあげていた。中学生にとって高校生から直接話を聞けることは貴重な機会になると同時に得られるものも大きいと考える。教員になったときにできるかはわからないが、卒業生を呼んで受験について話してもらう機会を設けたい。
10月14日	以前に転部したいと言っていた子に最近どうと話しかけました。そしたら、最近は箏曲部が楽しいと言っていた。高校で何があったかはわからないが、楽しくできているなら良いと思った。
11月3日	中学3年生の子に都道府県を教えました。ただ、名前を覚えるだけでなく、県の形を動物や手に見立てたり、特産品を教えたりと関連させて教えました。するとみるみる覚えていったのでこういう指導方法は有効だとわかった。
11月11日	同じ学科を受験する高校生に出会った。入試方法も私と同じ推薦でした。人間イメージしたとおりになると考えるので、常に「大丈夫だよ、合格できるよ」と伝え続けた。高校生も不安だった顔が少しずつ自信に変わっていくのがわかった。
11月17日	先週出会った受験生と交流した。自分の放った言葉が相手に影響を与えるという感覚が常にあり不思議な気持ちだった。
12月1日	中学生のことゲームをして交流しました。そのゲームが得意な子がいて生き生きとした顔でたくさん教えてくれた。得意を人に教える時、人は輝くのだと気づいた。
12月9日	今日は昨年フィリピンから日本に来た中学1年生の子と交流しました。半分英語、半分日本語で話しました。学校現場も多国籍になってきているので英語でコミュニケーションがとれることは生徒の学びにとって必要であると感じた。
12月27日	今日は仲の良い高校生2人がすれ違いを起こし、一人は泣いていた。それについて、わたしは話を聞くことに心がけたことと、過度に心配をしないで二人なら修復できると信じた。別の友人が間に入って仲直りをしていたので子どもを信じることの大切さを感じた。
1月12日	活動予定見込み
1月19日	活動予定見込み
月　日	
月　日	

5　あなたの決意（目標）を振り返り、自分が変わったと思う点があれば、何がどのように変わったのか、また、そのことについてどう思っているのか、記述してください。

私は、教育ボランティアを通して中高生の実態を把握すること、中高生との関わり方を学ぶことを目標にしていた。本活動を通して、自分から積極的に中高生に話しかけに行き、自ら関係性を築くように意識するようになった。それについて、小学生と中学生、高校生と相手にする校種によって関わり方は変わってくると感じた。教育実習に向けて小学生と中学生で関わり方が違うということがわかり、教育実習で児童生徒とどうかかわるかイメージが持ててよかった。

6　活動を通じて、あなたが学んだことやこれからのボランティアで力を入れて取り組んでみたいことを記述してください。

昨年度は小学校で活動をしており、子どもから話しかけてくれることが多かったが、中高生はこちらから話しかけないと関係性を築くことが難しいということを学んだ。こちらから話しかけた分だけ、子どもも話しかけてくれるのでこちらから話しかけて関係性を築こうと思って関わることが大切だと学んだ。

7　その他（ボランティア活動に関して何かありましたら自由に記述してください。）

なし

◇学びの振り返りシート

学年	1年	コース	芸術身体教育コース
学籍番号	E2306013	氏名	藤森咲智

1　活動場所　子ども図書室

2　主な活動内容　本の返却、貸出

3　教育ボランティア活動を進めるにあたっての決意（目標）を記述してください。

子どもたちに図書室を好きになってもらえるように、様々なアプローチを考える。

4　今日の活動で一番心に残ったことを記述してください。

5月10日	来室者は来なかったが、一通り仕事を知ることが出来た。
6月7日	初めて来室者の対応をした。貸出、返却等基本的な仕事を覚えることが出来た。
7月26日	ドミノを図書館の方から頂き、その日に来室した兄弟が1時間ほど遊んでいた。初めは、ただ並べるだけだったが、だんだん階段を使ったり、テーブルの下をくぐらせたりなど子供の発想力の豊かさに驚かされた。
8月21日	ハロウィンに向けてイベントを開きたいと思い、ハロウィンの本の棚を作った。また、読み聞かせをするイベントを開きたいと考えた。
9月6日	本を探している親子がいた。見つけることができなかったので、もう少し普段から本の配列を見て、今後本を探している方が来たら、見つけられるようになりたいと思った。
11月1日	ハロウィンの季節が終わったので、おすすめの本の棚を作った。昔読んだ印象的な本を見つけることが出来た。懐かしい気分になり、同時に図書室に来る子たちにも、大人になった時に思い出せる本を見つけてほしいと思った。
11月29日	クリスマス会に向けて内容を考えた。また、クリスマスの本を選んだり、クリスマスの本の棚を作った。あまりクリスマスの本は読んだことがなかったので、様々な本を知ることができて良かった。
12月19日	クリスマス会のために、飾りつけを作った。会に来る子たちが楽しく、わくわくした気分になってくれるようにどんな飾りがあったら良いかを考えながら作った。
12月20日	クリスマス会を開いた。多くの子供たちが来てくれて嬉しかった。私は歌や音楽の時間を担当したが、選んだ曲が子供たちが歌詞を見ずに歌える曲ではなかったので、今後開くときは子供たちが楽しめるような曲を選び、曲の順番を工夫しようと思った。また、子どもが迷っていたので、座って聞かせるのか、立って聞かせるかなど細かいことまで考えようと思った。
2月21日	本の整理や本棚の入れ替えをしようと思います。
月　日	
月　日	
月　日	

5　あなたの決意（目標）を振り返り、自分が変わったと思う点があれば、何がどのように変わったのか、また、そのことについてどう思っているのか、記述してください。

子供たちと関わることが今までは無かったので、どのようなアプローチをすれば図書室を好きになってもらえるか分からなかったが、子供たちと触れ合うことにより、おすすめの本を出したり、折り紙やドミノなどで一緒に遊ぶなど子供に寄り添うことが子供の好奇心を引き出せるのではないかと思えた。しかし、子供と触れ合う時間が少ないため、本当の子供たちの気持ちは分からず、図書館を好きになってもらっているか知ることは難しかった。これからの課題としては、少ない時間でも子供の好奇心を引き出したり、本への興味や関心がどのようなものなのかを聞ければ聞きたいと思う。また、それを受けてどのようにしたら図書室への興味を引き出せるのかを考えていきたいと思った。

6　活動を通じて、あなたが学んだことやこれからのボランティアで力を入れて取り組んでみたいことを記述してください。

子供への声掛けは難しく、特にイベントをしたときには一緒に遊びたいなと思っていても、子供が飽きてしまって触れ合うことができなかったりなど、自分が声をかけると子供が離れてしまうことがあった。どんな風に声をかけたら触れ合うことができるのか、子供の学びを促すことができるのか等子どもへの関わり方について、今後もボランティアを続けていく中で、実践を積みながら学んでいきたいと思った。また、子供は短い時間でも成長していくことを学んだ。ドミノを図書室に置いた時、最初は机に並べるだけだった子供が、階段や回転、他の机を繋げる等の工夫をし、試行錯誤してうまくいかない時は解決策を考え、かなり長いドミノを完成させることが出来た。その時子供の発想力の豊かさに驚かされたことは今でも覚えている。学校でもこのように子供は日々成長し、多くのことを学んでいるのだと気付かされた。今後はどのような声掛けや行動をすれば、子供がより多くのことに気付いたり、学べるのかをよく観察して教育実習や実際に教員になった時に生かせるようにしていきたいと思う。

7　その他（ボランティア活動に関して何かありましたら自由に記述してください。）

甲府市教育支援ボランティア事業における山梨大学生の活動について

甲 府 市 教 育 委 員 会
指導主事　山 主 公 彦

１．事業の概要

(1) 事業名：甲府市教育支援ボランティア事業（H22 年度より事業開始）

(2) 目　的：甲府市立小中学校において児童生徒へのきめ細かな支援の充実を図るために，甲府市内にある大学に在籍する学生を教育支援ボランティアとして派遣する。

２．山梨大学生の活動の実際（Ｒ５年度）

(1) 活動人数：45 名　【R4 年度…54 名】

(2) 派遣先学校数：22 校（小学校 13　中学校 9）※全 36 校，3 適応指導教室中

(3) 主たる活動内容：タイプ別に見ると，多い順に，「授業におけるきめ細かなＴＴ支援」，「特別支援教育対象児童生徒への支援」，「不適応児童生徒への支援」の順となっています。

(4) 活動回数・時間（45 分単位）：おおよそ，延べ 約 774 回・延べ 約 3853 時間

１回の平均活動時間 約 224 分　　学生１人あたりの活動回数 約 17 回

３．派遣先小中学校からの感想（抜粋）

特別支援学級の児童に付き添い，聞き取れなかった指示を再度説明したり必要に応じてアドバイスをしたりする活動をしました。集団の中でなかなか質問ができずに不安になったりイライラしてしまったりする児童にとって，とても助けになりました。〔小学校〕

子どもの話に最後まで耳を傾け，行動を丁寧に観察していただいたおかげで，今まで気づくことができなかった子ども同士の人間関係，子どもの持つ悩み，長所などを知ることができ，学ぶことがたくさんありました。毎週，全力で子ども達と関わっていただき感謝しております。〔小学校〕

子どもへの傾聴の姿勢が素晴らしかったです。担任が気づくことができないような視点から行動を観察してくださり，子ども達の悩みや問題に気づくことができました。担任が学ばせていただく事がとても多かったです。　〔小学校〕

児童の様子を観察し，困っている児童に積極的に関わり支援を行った。児童ができたことを認め，よく褒めるので，児童が自信を高めて学習に取り組む姿が見られた。休み時間は児童と進んでコミュニケーションをとり，良い関係を築くことができた。〔小学校〕

活動当初より自分から「何かやることはありますか」と担当職員に話をするなど，この活動の目的を理解して，前向きに取り組んでいた。誰に対しても礼儀正しく接する姿勢に職員一同好感が持てました。〔中学校〕

１年・２年・３年生（それぞれ１クラスずつ）の数学の授業に入り，きめ細やかな学習支援（主に個別支援）を行いました。個別の支援を要する生徒を意識して机間巡視したり，生徒の質問に丁寧に説明したりする姿が見られました。〔中学校〕

４．活動の成果と課題

本市では，教育支援ボランティアをスタートさせて 14 年目を迎えました。各校からは，毎年たいへん高い評価とすばらしい成果の報告をいただいております。学生の皆さんにとっても，教育実習の前後にボランティア活動を行うことは，スムーズな実習への移行や，その後の深い教育実践への接続など，より高い教育効果が期待できると思います。

活動日や活動時間，活動内容などは，大学での講義の予定を踏まえながら，学生の皆さんのニーズをもとに，活動校との相談によって決めていきます。また，大学が甲府市にあるため，交通の利便性にも優れ，ボランティア活動と大学での学びを両立するには最良だと思います。

今年度も前期後期で募集ができたことで，たくさんの学生の皆さんに参加していただけました。学生の皆さんにも，大変熱心に，また丁寧に子ども達と接していただき，学びをサポートしていただけました。感謝申し上げます。今後も，学生の皆さんが安心して充実した活動ができますようにサポートしていきたいと考えています。１人でも多くの学生の皆さんの参加をお待ちしています。

「２０２３年度　学生教育ボランティア活動を振り返って」

南アルプス市教育委員会　　指導監　横小路　亮

１　本年度の活動状況

（１）学生ボランティア数　８名

（２）活動場所　市内小中学校　５校

学生が希望する学校で活動ができるように調整しながら，小学校３校，中学校２校で活動していただきました。

２　活動の実績　＜山梨大学の学生８名による活動＞

（１）学　校・・・若草小学校，若草南小学校，豊小学校，
白根巨摩中学校，若草中学校

（２）内　容・・・学習支援（授業準備・補助，放課後学習），特別支援，部活動支援等

（３）時　間・・・大学の授業の空いている時間を使い，午前中や午後，放課後など各自の時間に合わせた時間設定で協力していただきました。

３　活動の様子（小中学校の感想から）

＜小学校＞特に１年生や特別支援学級の児童の学習支援に入っていただき感謝しています。担任一人では指導が行き届かない場面，特に音楽の時間のピアニカの指導では，手を添えて指使いを教えていただき，児童の演奏が上達しました。教えていただいた児童もとても喜んでいました。また，特別支援学級では，児童に寄り添った学習支援をしていただきました。持ち前の明るさで児童に接し児童の目線で話をしてくださり児童からも信頼されていました。学校にとって有難い存在でし

＜中学校＞２名の教員志望の学生さんが来てくれました。自分の専門である教科はもちろん，それ以外の教科においても，状況に応じた臨機応変な指導・支援をしてくれました。学園祭や合唱発表会に向けての取組期間中は，劇の練習や合唱づくりへも積極的にかかわり，生徒への良い刺激となっていました。また，部活動の指導も子弟同伴で行ってくれ，学生時代の経験を生徒に伝える中で，技術面はもとより，精神面でのサポートもしてくれました。熱意を持った素晴らしい学生の皆さんに学校全体が大きな力をもらいました。

４　活動を振り返って

本年度は，８名の学生に本市の学校教育を支えていただきました。ありがとうございました。児童生徒に年齢が近い教育ボランティアの先生方が活動をともにすることで，より安心して学校生活を送れたり，自分の力を発揮できたりする児童生徒も多かったと思います。自分が児童生徒として経験したころと比べて，学校現場はどうだったでしょうか？今，学校教育の姿が大きく変わろうとしています。コロナウイルス感染症が第５類となり，教育活動も徐々に平常を取り戻しつつあります。数年前とは大きく変わったことは，１人１台タブレット端末導入に表れている教育の情報化です。すべての児童生徒がこれから生きていく時代に立ち向かえるように，どんな基礎や基本を身につけていけばよいのか，それを伸ばすためにどのようにＩＣＴ機器を使いこなしていけばよいのか，その他，学力だけでなく，ソーシャルスキルなどのコミュニケーション能力を向上していくための工夫はどうすればよいのかなど様々な課題は多数あります。この時期に学校現場を経験したことが皆さんの力になっていくことを期待しています。南アルプス市における教育ボランティア活動の受け入れも本年で１０年目になりました。この教育ボランティアに参加してくださる学生のみなさんは本当に意識が高く，各校からは感謝の言葉が多く届いています。今後も多くの学生の皆さんに参加していただき，子どもたちのために今後も若い力をお借りできれば幸いと考えています。

「 2023年度　教育ボランティアについて 」

甲斐市教育委員会
指導主事　佐藤耕太

1　本年度の活動状況

（1）学生ボランティア数　１６名

（2）活動内容・場所

① 市内小中学校への教育ボランティア活動

内容：学習支援,特別支援,個別支援,部活動指導　等

場所：竜王小学校,玉幡小学校,竜王北小学校,敷島小学校,双葉東小学校,竜王北中学校,敷島中学校

② 甲斐市中学生対象の自学講座

内容：講座運営,学習支援　等

場所：竜王北部公民館,竜王中部公園セミナーハウス,敷島公民館,双葉公民館

2　活動の様子

（1）市内小中学校への教育ボランティア活動（ 小中学校の感想から ）

【 小学校 】

昨年度に引き続きのボランティアでした。勤務態度がよく昨年の経験から本校の教育や児童について理解があり,円滑な活動ができていました。そのため,職員との連携もよかったです。学生さんの来校を楽しみにしている児童がたくさんいました。休み時間は外で一緒に遊び,学習支援でも積極的に児童に関わる姿が見られました。教育実習等で忙しいと思いますが,またボランティアとして来てくれることを願っています。学校の人手不足が深刻な状況にあるなか，この事業が学校にとって大変有難いものとなっています。来年度のボランティア活動にも応募したいと思います。

【 中学校 】

とても意欲的で,生徒との関わりを大切にしていました。支援が必要な生徒に対しても,教科の先生や学年主任と連絡を大切にして対応していました。部活動等も参加できる時には,生徒と一緒に活動していました。何事にも前向きで,何よりも生徒との活動を楽しみながら笑顔で行う姿が印象的でした。教育ボランティアに参加していただき本当にありがとうございました。

（2）甲斐市中学生対象の自学講座

自学講座は，山梨大学と山梨県立大学の学生の皆さんにご協力いただき，運営から学習支援までのすべてをお願いしています。本講座には，市内在住の中学生１～３年生が参加しており，中学生からは，「参加してよかった」「勉強が進んだ」といった感想が数多く寄せられています。

中学生は，年齢の近い大学生の皆さんに親近感やあこがれの思いを抱いており，個々の学習状況にあったアドバイスを受けられることを心待ちにしております。大学生の皆さんには，今後もご協力いただけることを心より期待しています。

本講座は，山梨大学と山梨県立大学の学生との連携によって成り立っていますので，活動を通して皆さん自身も仲間との輪を広げ，共に教職を志す仲間と積極的かつ主体的にご参加いただければと思います。山梨の教育を支える伝統ある山梨大学の学生の皆さんの力に期待しています。

「熱意あふれる活動に感謝　～受け入れ校からのメッセージ～」

中央市教育委員会
教育指導監　中村　文彦

【田富小学校より】

本校には毎年２～３名程度の教育ボランティアに来てくれる学生の方がいます。昨年度も，山梨大学からは２名の方が参加してくれました。２名とも明確な目的・目標を持ち，積極的に活動してくれました。１年生の芦澤さんは，現在の学校現場を早いうちから体験したいという思いをもってボランティアに参加されていました。主に，６年生の授業の支援に入ってもらいました。３年生の佐藤さんは，外国にルーツのある児童への日本語指導について学びたいという考えをお持ちでしたので，主に日本語指導教室の支援に入ってもらいました。教育ボランティア活動は，将来教員を目指す学生の方にとっては，実際に教育現場を体験でき，実践的な力を身につけ，教員という仕事への理解を深めることができる絶好の機会です。また，本校は，外国籍の児童が多く，全校の約５分の１を占める学校です。多文化共生に関すること学ぶにはうってつけの環境です。今年度も一緒に勉強したり遊んだりしてくださる方を募集します。日々の教育活動や学校行事などに来ていただき，楽しみながら子どもたちを支援してみませんか。きっとあなたの将来にとって，必ずプラスになる学びができると思います。お待ちしています。

〇昨年度，教育ボランティアに参加した学生の方の感想

【ボランティア活動で参考になったこと】

・生徒と先生という関係性での程よい距離の取り方。
・算数の授業における ICT の活用の仕方。
・体育の授業においてできる児童とできない児童がいるが，声のかけ方を変化させて児童のやる気を下げないこと。
・日本語教室でのコミュニケーションの取り方。
・子どもたち一人一人の日本語のレベルに応じて，先生方が学習計画を立てていたこと。
・日本語教室が子どもたちにとって，リラックスして過ごせる居場所のようになっていたこと。私は将来，教師になったときに，子どもたちが自分らしくいられる学級を作りたいと思っているため，参考になった。

【ボランティア活動を通しての課題】

・学級に多くいる外国籍の児童に算数を教えるのが難しいと思った。
・特別支援学級の児童と打ち解けるのに少し時間が必要だった。
・総合的な学習の時間で，自分なりの意見を問われた時に，小学生のような色々な目線からの思考ができなかった。
・年が近いこともあり少し友達のような距離感になってしまいがちだった。
・授業において苦手な科目などがあると積極的に声掛けをするのが難しかった。
・授業に集中することができない様子の子どもへの対応の仕方に難しさを感じた。
・子どもたちにとって理解しやすい言葉で，授業の支援をすることが難しかった。特に，シンプルな日本語で，算数の内容を教えることがなかなかできなかった。

２０２３年度　教育ボランティアの活動について

昭 和 町 教 育 委 員 会
教育指導監　冨士池慎一

【押原小学校】

本校は，山梨大学より本年度２名の学生さんに教育ボランティアとして御協力いただき，主に個別指導が必要な児童の支援や学習の補助に入っていただきました。実習や授業の都合で来校いただけない時もありましたが，児童だけでなく担任の先生方も来校を心待ちにしている様子がうかがえました。児童に声をかけたり，学習の支援に入ったりするときには児童の目線に合わせてくださっていました。休み時間にも子どもたちとふれあい，一緒に遊んだり，けがをしている児童の補助に入ったりしていただきました。

若い感性で子どもたちに関わり，学校現場の様子を学んでいただく事は学校にとっても，学生さんにとっても大変貴重な機会となっていると思います。引き続き学習支援等御協力をいただけるとありがたいです。

【常永小学校】

本年度は，山梨大学から２名の学生さんに教育ボランティアとして来ていただきました。主に個別指導が必要な児童の支援や学習の補助，清掃指導や教員の補助に入っていただきました。「個別最適な学び」「協働的な学び」と言われる中で，個々に児童に支援できる教育ボランティアの学生がいることは児童にとっても指導者にとっても大変ありがたいです。さらに家庭や地域のあり方や，子どもたちを取り巻く環境も大きく変化し，支援の必要な子も増加傾向にあります。本校に来ていただいている教育ボランティアの学生さんは，とても意欲的かつ熱心に学習と生活のサポートをしてくれています。これをごらんになっている皆さんも，子どもたちを「教え・育む」という尊い活動に参加していただけたらと思います。

【押原中学校】

本校は，山梨大学より１名の学生さんに教育ボランティアとして来ていただきました。主免の教科を中心に１日２時間，Ｔ・Ｔで授業に入ったり，帰りの会・清掃に一緒に取り組んだりしていました。また，部活動にも参加して，生徒に技術指導をしていただきました。部活動は年齢が近い卒業生とあって，生徒達は指導を受けられるのを楽しみにしているようでした。授業では，机間指導をして生徒に自分から声をかけたりする様子が多く見られました。学生さんにとって，授業のスキルやクラスづくり，生徒の様子など学んだことも多かったようです。引き続き学習支援等ご協力いただけるとありがたいです。

韮崎市教育ボランティア　活動受入校からのメッセージ

韮崎市教育委員会
指導主事　髙瀬　有治

韮崎市では，教職を目指し教育ボランティアに参加してくださる皆さんに，まず心から「ありがとうございます。」と感謝の気持ちを伝えたいです。教育現場において，子どもたち一人一人に充実した指導・支援の体制を整えるには，熱意ある人材が必要です。自ら言葉をかけ，教えることによって，子どもたちができるようになった，分かるようになったという経験を数多く積むことが，さらに強く教職を望むきっかけとなってくれれば幸いです。皆さんのご参加をお待ちしています。

百聞は一見に如かず

韮崎市立韮崎小学校
教諭　土井　大輔

韮崎小学校では，主に２年生の学級に教育ボランティアとして御協力いただきました。主に昼休み・掃除の時間と午後の授業にサポートで入っていただきました。昼休み・掃除の時間には，子どもたちと話をしたり一緒に活動したりとよく触れ合っていただきました。子どもたちにとっても学生さんは年齢が近く，何でも話しやすいお姉さんのようでした。授業のサポートにおいては児童に積極的に声をかけ，児童に寄り添った支援を心がけていました。学生さんにとって児童と直接接し教育活動に関わることは，教職の仕事について多くのことを学ぶ良い機会となったことと思います。韮崎小学校職員一同，教職を目指す学生ボランティアの皆さんを心より応援しています。

教育ボランティア参加をお待ちしています！

韮崎市立韮崎北東小学校
主幹教諭　　川端　純一

韮崎北東小学校の子どもたちにとって，年齢の近い学生の皆さんに来ていただくことは，うれしくて，大変貴重な機会になります。また，教育ボランティアの皆さんにとっても，児童として通っていたときとは違った視点から，子どもたちと直接触れ合い，学びや遊びを通して実際に，学校を感じ取る機会となります。「百聞は一見にしかず。」まずは，子どもたちの中に思い切り飛び込んでみてください。大きな発見がきっと待っています。そして，教師への思いを育み，自分の能力と適性を感じ取ってほしいと思います。北東小学校職員一同，教職を目指す学生ボランティアの皆さんに，大きなエールを送るとともに，本校へのボランティア参加を心よりお待ちしております。

経験を力に！

韮崎市立韮崎西中学校
教諭　有泉　秀広

ボランティア期間は，主に３年生と１年生の数学の支援に入ってもらいました。問題演習などで戸惑っている生徒に積極的に関わり，支援してもらい助かりました。

学生ボランティアは中学校を卒業して３年余りという，生徒にとっては少し上の先輩なので，親しみやすく，頼りになる存在であると思います。本人にとっても，生徒の頃とはまた違った視点で教育現場をみつめることができると思います。机上での学習はもちろん大切ですが，実際に現場に

触れ，雰囲気を感じることがより大きな力となることは間違いありません。限られた時間ではありますが，積極的に生徒に関わり，いろいろな経験をして，将来に役立ててください。もちろんそれが全てではありませんが，一端に触れることで間違いなく自らの糧となります。その中から，教育の仕事にやりがいを見つけてもらえるとうれしいです。

かがやき教室での活動

韮崎市教育支援センター
主任指導員　矢ケ崎二男

韮崎市教育支援センター（かがやき教室）は様々な理由から登校することが困難な児童・生徒が通室してきます。２０２３年度は１名の学生ボランティアに協力していただきました。週に１回でしたが，一人ひとりの児童生徒とコミュニケーションをとりながら，学習，ゲームなど支援をしてもらいました。時には野菜や果物の収穫体験，干し柿づくりなど，一緒に活動し児童生徒の理解を進めていました。特に高校入試を控えている中学３年生の生徒には，受験対策や難解な内容の指導を丁寧に行ってもらい，大きな成果を上げています。児童生徒も週に１回の来室を楽しみにしていました。

一人ひとりの児童生徒に寄り添った支援をすることは困難なことですが，教員を目指している学生さんにとって，個々の児童生徒の理解，個に応じた指導法などを学ぶことは，今後の活動の大きな財産になると思います。

よろしくお願いいたします。

中高生の「らしさ，無制限。」な居場所

NPO 法人河原部社　青少年育成プラザ Miacis
ユースワーカー　清田　祐華

青少年育成プラザ Miacis(ミアキス)は，中学・高校生の拠点です。学校や学年を問わず，13 歳から 18 歳の中高生たちが，自由に過ごすことのできる空間です。ここは，中高生にとって地域の中の「ヨリドコロ」であり，中高生それぞれの「らしさ，無制限。」を引き出すことを目指し，日々の関わりを通して中高生に向けたあらゆるきっかけを提供しています。学校や学年の違う同世代との出会いがあったり，イベントに参加してみたり，自分でイベントを企画してみたり。そんな経験や実践から自分に対する気づきを得て，中高生たちが主体的に自分の選択肢を広げられるようになればいいなと思って，日々中高生と接しています。

大学生のみなさんには，中高生に積極的に声をかけてほしいです。彼らがどんなことに興味があるのか，最近何が好きなのか，頑張っていること，年齢が近いみなさんだからこそ話せる話題などで，中高生と関係性を築いてみてください。

北杜市学生教育ボランティア活動を振り返って

北杜市教育委員会
指導監　進藤俊幸

北杜市では，教員を志す学生に教育現場の経験を提供するとともに，児童生徒へのきめ細やかな支援により，学校教育のさらなる充実と教育現場の活性化を図ることを目的に，2016 年度から学生教育ボランティアの募集を始めました。

募集１年目においては希望者がいませんでしたが，２年目からは２名から４名，毎年希望者がありました。コロナ禍での実施が危ぶまれました時期もありましたが，８年目の今年も１名の希望があり，大変熱心に活動を行っていただきました。

本市では，活内容や活動日などについて，学生の希望を最優先に受け入れを行っています。授業におけるＴ・Ｔ支援や，個別に支援を必要とする児童生徒への対応などを主な内容として，活動していただきました。以前の配属校からも次のようなコメントが寄せられています。

学生ボランティアとして児童への学習支援を務めていただきました。N さんには，５・６学年３学級の算数や国語，体育の授業に参加していただきました。算数や国語では，学習支援を必要としている児童への個別指導を丁寧に行っていました。指導していただいた木曜日午前中の，児童たちの喜ぶ姿が印象的でした。一昨年度から穏やかに丁寧に児童に関わっていただいています。教育活動に取り組む姿勢は，本人の人柄によるものだと感じます。今年度の指導においても，様々な児童がいる学校現場において，児童との関わりを楽しんでいる様子は頼もしく，素晴らしいと感じています。教師としての資質や適正が十分にあると感じます。今後も大学での学習や実習，研究を積み重ねながら，さらに成長されることを期待しています。

最後に本校として，山梨大学からの学生ボランティアを今後も引き続き受け入れさせていただければと思います。

本校の卒業生であり，また昨年度に引き続きの学生ボランティアということで，学校の様子（流れ等）を十分に理解して教育活動に取り組んでくださいました。

個別の支援（声掛けやサポート）が必要な児童への対応，授業に必要な資料の準備，それに実際の授業と，様々な場面で協力していただき，関係した職員からは多くの感謝の言葉を耳にしました。また，休み時間は児童に積極的にかかわっていて，そのことが児童からの厚い信頼にもつながっていました。

教員を志す方にとって，この「学生ボランティア」という取り組みは大変有効だと考えます。教育実習とは異なり，学校現場のありのままの姿，現状（課題等も含め）を肌で感じることができるはずです。受け入れる側の学校としても，子供たちの豊かな学びを保障するために，また学校現場が抱える「多忙化改善」という点からしても，今後も継続していってほしい取り組みです。

この活動を支えてくださっている山梨大学教育学部教職支援室の先生方，貴重な授業の合間を使って教育ボランティア活動にご協力いただいた学生の皆さんに心より感謝いたします。今後も，教職を志す学生の皆さんが活動しやすい環境を提供することを第一に，募集を継続していきます。さらに多くの学生の皆さんの参加を，北杜市の子どもたちとともにお待ちしています。

「笛吹市学生ボランティア活用事業について」

笛 吹 市 教 育 委 員 会
生涯学習課　生原淳一

１　はじめに

笛吹市では，２００７年４月から笛吹市学生ボランティア活用事業を行っています。この事業は，教員志望の学生を市内の各小中学校で受け入れ，授業や課外活動等の支援をしていただくものです。

笛吹市教育委員会では，ボランティア活動保険への加入，交通費として謝金の支給をしています。

２　事業内容について

支援内容はＴＴ（ティームティーチング）形式の授業，放課後・長期休業時の学習会，特別支援学級所属の児童生徒の学習補助，クラブ活動・部活動等の支援など多岐に渡っており，学校現場の様々な活動を経験することができます。これまでにも，マラソン大会の練習や，運動会の準備または当日の支援など体育行事から学習支援，また，給食指導や休み時間の活動にも積極的に支援いただきました。

学生の皆さんの支援により，受け入れ先の学校では，児童・生徒へのきめ細かな指導が可能となり，学力の向上や指導の充実が図れます。また，みなさんの若い力が，学校現場での活性化にもつながります。そして，なによりも子どもたちや教職員と接するなかで，現役教員の授業方法や子どもたちへの接し方等，学校現場での現実的な対応を間近で見ることができるボランティア活動は，教員等教育関係のお仕事を目指す皆さんにとって，有益な機会となります。

積極的に活動へ参加していただける山梨大学のみなさんの登録を，心よりお待ちしています。

３　活動中の様子

「教育ボランティア活動を振りかえって」

市川三郷町教育委員会
教育総務課　相川由美

１　はじめに

市川三郷町では，2022（令和４）年度から，教育ボランティア活用事業を実施しております。

この事業は，教員志望の学生を町内の各小中学校で受け入れ，学校現場において支援をしていただくものです。多様化する社会の中,学校現場においても,個別最適な学習と協働的な学習の進展を図る必要があり，将来教員を目指す学生のみなさんによる幅広い支援を通じて児童生徒へのきめ細かな指導体制の確立，学習支援を必要としている子どもたちに寄り添い，教師と連携した支援にご協力をいただいております。教員を志す学生のみなさんには，学校内の様子や教育現場での経験，児童生徒とのふれあい等の場を提供することにより，多くのことを学び，児童生徒へのきめ細かな学習支援へのお手伝いをお願いしたく募集をいたしました。本年度は，前期１名，後期１名(前期と同人），通年１名の応募があり，いずれも小学校２校において積極的に活動をしていただきました。２名の学生さんには児童に寄り添い，誠実に，真剣に，そして温かく熱心に支援・指導をしていただき心より感謝しております。　また，本町では 2021 年度から「ふるさとキャリア教育（みさと学）」として，ふるさとを知り，ふるさとを愛する児童生徒の育成に取り組んでいます。学生のみなさんには，ぜひ子どもたちと一緒に本町の歴史や特産物等についても学び，本町のことを知って頂くよい機会となれば幸いです。

２　活動の実績

（１）活動校　　上野小学校，市川小学校

（２）内　容　　学習支援　授業のサポート　行事参加　下校の見守り　清掃補助等

（３）その他　　活動を実施する前に，教育委員会，学校長，学生さんと打ち合わせを行い，活動日・活動時間の確認・調整・支援の内容など一緒に計画を立てました。

３　活動の様子

〈Ａ小学校〉

主に３学年の学習支援をしていただきました。年齢が近い学生さんに，子ども達はとても嬉しそうであり，子ども達との関係も築きやすくすぐにうち解けていました。また，児童に寄り添い，学習のつまずきや遅れ等に対応ができ，学習効果を高めることができました。

〈Ｂ小学校〉

午後からの勤務であったため，清掃の補助をしていただいた後，授業において特別に支援が必要な児童の学習や生活面の補助・支援，その他下校指導・付き添いをしていただきました。授業は主に，図工の制作活動・国語の作文の文づくりの補助に携わっていただきました。

４　おわりに

学校現場や児童生徒との関わり等実際に体験・感じることができるこの活動は，教員を目指す学生さんにとってはとても有効な事業だと感じます。また本町の児童生徒にとっても，年齢の近い学生さんからの指導は距離も近く楽しみながら学習ができました。今後も多くの学生の皆様に本町の応援団になっていただき，児童生徒への支援や指導をお願いいたします。皆様のご活躍を期待しています。

「教育ボランティア活動の効果や反響について」

富士川町教育委員会　教育総務課

１　はじめに

富士川町では，2014(平成 26)年から「そよ風教室」と銘打って，学力の定着が十分でない児童・生徒へ，土曜日や夏休み等を活用した学習支援を行い，基礎学力の定着と学習意欲の向上を図ることを目的とした活動を行っています。

教室は「小学生の部」（午前）と「中学生の部」（午後）に分けており，それぞれ１回につき２時間開講しています。今年度は小学生の部・中学生の部共に全 28 回の開講を予定しております。

講師については，退職した教員を中心に指導を行っておりますが，教育ボランティアの学生にも協力していただいております。ボランティアの学生は，児童・生徒や講師の方々にも好評であり，今年度も山梨大学の学生３名に参加いただき，主に「中学生の部」の学習指導をしていただいております。

２　生徒・保護者から感想

〇保護者から見た生徒の反応・感想

（１）「教室が終わっても嫌な顔をしないので，教室の雰囲気や先生の教え方が良いのだと思う。」

（２）「学校では分からなかったところを聞くことができ，頑張っている様子です。」

（３）「積極的に学習に参加するようになり，分からないところが分かって喜んでいました。」

〇生徒の声

（１）「分からないところを教えてくれるので勉強が分かるようになった。回数を増やしてほしい。」

（２）「苦手な教科にも取り組もうと思えるようになった。先生方の問題の解き方が自分と違っていて，別の方法もあることを知り，学習することが楽しいと感じるようになった。」

（３）「家庭学習するのとは違い，時間が決められているため，その時間内は集中して学習ができるようになった。」

３　おわりに

昨年度に引き続き，学生ボランティアを講師に迎えることは，とても有意義な活動だと感じました。今回参加した３名の学生についても，教えることに対して楽しさを感じているようで，回を重ねるごとに教え方も上手になってきており，積極的な姿勢が見て取れました。

生徒の様子も，年代が比較的近いこともあり，学習面はもちろん，雑談等についても親近感をもって積極的に話をしている様子で，こうした関係も学生ボランティアならではだと思います。

今回の教育ボランティアを通じて感じることは，教育実習とは違い，ベテランの退職教員の指導を身近で見ることができ，また，生徒の個々の課題に対して，工夫して教えることによって柔軟な指導力を培うことができたのではないかと思います。他のベテラン講師からも好評で来年度も是非来ていただきたいという声をいただいています。

この場をお借りして，今回協力していただいた学生ボランティアに感謝申しあげます。

教育ボランティアによる教育サポート事業について

富士河口湖町教育委員会
教育センター所長　藤巻　桂吾

１　はじめに

富士河口湖町は，2018（平成 30）年１月に山梨大学と包括的連携協定を締結しました。具体的な取り組みの一つとして，教育ボランティアによる教育サポート事業があります。本町独自で 2016（平成 28）年度から実施している長期休業中の「学習応援教室」の学習支援に，山梨大学の学生の皆さんに参加していただくというものです。

２　学習応援教室

（１）目的

①長期休業中の児童・生徒の主体的な学び，課題解決の学習支援を行う。

②普段，家庭において一人では学習できない子どもたちを支援する機会とする。

（２）実施方法

①会場：町内各小中学校　参加人数により，教室や時間を分けて実施するなど，各校ごと工夫して実施しています。

②方法：長期休業中の課題や既習学習の復習，家庭学習のうち，自分では「どうしていいかわからないこと」を持ち寄り，指導や助言を受けながら学びます。

３　活動の様子

・2023（令和５）年７月 24 日(月)～８月 10 日(木)の間で各校３日～４日間実施しました。

・夏休みの学習応援教室開催校と参加人数は下表の通りです。

船津小	小立小	大石小	河口小	西浜小	大嵐小	豊茂小	計
129 人	252 人	18 人	10 人	60 人	24 人	10 人	503 人

湖北中	勝山中	計
48 人	53 人	101 人

小中学生合わせてのべ 604 人が参加しました

４　終わりに

これまで指導に関わってくださった学生さんには，子どもたちに寄り添い，誠実に，そして熱心に指導していただき心より感謝しています。

教職を志す皆さんにとって，あまりなじみのない地域の学校で教えるというのは，これからの糧となる経験だと思います。来てくださった学生さんの中には実際に教員となり，本町の中学校に勤務している先輩もいます。多くの志のある学生の皆さんのご参加を待っています。

「＃教師のバトン」

山梨市立山梨小学校校長　皆川　賢司

文部科学省が教師の魅力を伝えるために始めた「＃教師のバトン」は炎上しました。X（旧Twitter）を通して，教師の仕事のブラックな実態がつぶやかれました。実際，現在の学校現場はブラックです（改善に向けて鋭意努力中です）。

でも，教師の仕事には，それ以上の魅力があります。「子どもの成長に関われる」「自分で授業を創造できる」など，たくさんの魅力があります。

教師を目指そうと思っている人。どうしようか迷っている人。すでに他の道を選択しようとしている人。一度，教育ボランティアとして，生の学校現場を見てください。体感してください。ブラックな所も見えてしまいますが，それ以上の魅力が見つかります。必ず「教師のバトン」を渡す（教師を目指す）ことができると思います。

みなさんには「若さ」という最強の魅力があります。ボランティアの方が来てくれると，子ども達は本当に嬉しそうです。「自分にも若いときがあったのになぁ」と，きらきら輝く本校に来てくれている二人を見ると，私は嫉妬心さえ感じます。ボランティアに参加する事を不安に思っているとしたら，それは杞憂です。みなさんの「若さ」と「やってみよう」という気持ちがあれば大丈夫です。

最後になりますが，令和６年度も本校ではボランティアを募集します。本校の子ども達も先生方も本当に良い人ばかりです。ぜひ，大勢の方のご参加をお待ちしています。

穎川さん，岩下さん，本当にありがとう！！！山梨小を代表して感謝の気持ちを伝えます。

「子どもたちの笑顔のために･･･」教育ボランティア大歓迎！

富士川町立増穂小学校
教　諭　　深澤　浩代

本校の全校児童は約 450 人，特別支援学級には約 20 名の児童が在籍しています。

山梨大学教育ボランティア活動には，21 年前からご協力いただいています。当初から，特別支援学級の児童の指導補助として直接子どもたちと接し，指導に関わっていただきました。支援学級における国語や算数をはじめ，交流学級での体育や図工などの学習支援をしていただいています。また，一緒に給食を食べたり休み時間に遊んだりと，様々な活動をお願いしています。

これまでに多くの学生ボランティアの先生においでいただきましたが，子どもたちにとって，学生ボランティアの先生との出会いはとても貴重なものでした。子どもたちは，若いボランティアの先生に親しみを感じ，一緒に勉強したり遊んだりしてふれあいを楽しんできました。子どもたちも私たち教職員も，学生ボランティアの先生が来てくださることを楽しみにしています。学生ボランティアの方は様々な学年の多様な子どもたちに優しさと情熱をもって指導にあたってくださいました。いつも一生懸命に子どもたちと向き合ってくださったことに，感謝の気持ちでいっぱいです。

本校には，皆様を待っている子どもたちがたくさんいます。是非，積極的に教育ボランティアに参加していただき，私たちと一緒に子どもたちの教育活動に関わってくださることを心より願っています。

創立 135 年の歴史を誇る
増穂小学校と太鼓堂

学童保育は子どもたちの憩いの場

駿台甲府小学校　副校長　　小高　淳

駿台甲府小学校では，同敷地内に学童保育「やまびこ学級」を設置しており，学校を行っている月曜から金曜の授業終了後から 18 時 30 分まで児童を預かっています。本校の学童では，児童を預かるだけではなく，併設教室（習い事）として，書道，そろばん，英語，スポーツ，絵画・図工，囲碁，ダンスの７教室を展開し，児童は希望制で参加をしています。この併設教室の希望者も多く，学童利用者は平均 100 名，もっとも多い日には 130 名強の児童が学童を利用しています。

2023 年度は２人のボランティアの学生さんが来てくださり，子どもたちの宿題の質問に答えてもらったり，いろいろな遊びを一緒にしてもらったりしました。子どもたちも，自分たちと年齢が近いこともあり，学生さんが使用しているネームプレートフォルダには，たくさんの手紙や折り紙が入っていました。

本校は立地的に，山梨大学からは通いづらい面もありますが，私立ということで，公立小学校とは違う体験もできると思います。本校だけではなく，学生さんの力は，各学校で非常に期待されています。学業との両立で大変なこともあると思いますが，みなさんの力で，私たち教職員と一緒に，子どもたちの未来を作っていきましょう。

甲陵高校教育ボランティア

北杜市立甲陵高等学校　教頭　櫻井　利行

１．甲陵高校では以下の内容で，教育ボランティアを受け入れています。

（１）内容：放課後（16時以降）での学習指導・進路等の相談アドバイス

例年，学習指導だけでなく，進路選択，大学選択に関するアドバイスもしていただいている。時には大学で学んでいる専門分野に関する話などがあると，本校の生徒には非常に刺激となり学習のモチベーションを高めるのに役立っている。また，専門的な知識を生かして，高校における探究活動（文系・理系）に対する，研究方法・レポートのまとめ方・プレゼンテーションの仕方などに関する助言も期待している。

（２）教科：国語・数学・地歴公民・理科（物理，化学，生物）・英語

（３）目的：本校生徒の学習フォローと共に，ボランティアとして協力してくださる学生さんに高校における指導経験の機会として協力する。

（４）日時：月曜日～金曜日16:00～18:30の中で相談により時間や回数等を決定する。

２．甲陵高等学校の概況

（１）八ヶ岳南麓の北杜市が設置する市立の中高一貫校（県内唯一の公立併設型中高一貫校）

（２）全日制・単位制普通科１学年１２０名４学級全校生徒数３６０名，教員数５０名

（３）山梨県内有数の進学校であり，SSH指定校（３期目）として探究活動にも力を入れている。一方，クラブ活動や生徒会活動，国際交流活動なども盛んである。

担当：教頭　櫻井利行　電話：0551-32-3050　　E-Mail：tosi-s@yamanashi-koryo-h.ed.jp

児童養護施設での学習ボランティア活動について

児童養護施設　明生学園
心理療法士　市川　順子

児童養護施設とは，保護者による虐待・ネグレクト（育児放棄）や保護者の経済的理由から保護者とともに暮らすことが出来ない子どもたちが生活しているところです。現在，明生学園では 10 歳から 19 歳までの子どもたちが暮らしています。日中は地域にある小中学校，高校に通学しています。そのため，学園でのボランティアの活動時間は平日の夜の時間帯になります。１回のボランティア時間は１時間としています。学習ボランティア活動は主に小学生から中学生を中心に個別に勉強をみていただいています。家庭教師のようなイメージで行っています。

学園では，学生さんが学習を通して継続的に子どもたちに関わる事に重点を置いています。虐待・ネグレクトで入所した子どもが多く，そういった子どもたちは大人に裏切られた経験が多いです。人（特に大人）に対して信用することが出来ない子どもが多くいます。短期間での関わりでは警戒したままで終わってしまうことがあります。継続的に関わってもらうことで「来週もある。」「次は〇〇しよう。」などといった，未来の予測を持つことが出来ます。この，未来を予測する力は情緒的な交流になります。子どもたちにとっても学生さんたちにとっても生きていく上で大切な力を養えます。

また，明生学園では集団で生活をしており，」職員もその中で個別に関わっていますが，限界があります。子どもたちにとって「自分のために来てくれる。」という事が，自分が大事にされている事に繋がっていると考えています。勉強が第一ですが，時には話し相手になってもらう，一緒に遊ぶ，作業するなどの活動を通して，子どもたちとの関係を構築していけるところに学習ボランティアの醍醐味があると思います。一緒に寄り添っていただくだけで安心感が生まれます。

科学館でのボランティア活動で新しい発見を!!

山梨県立科学館
事業統括　野副　晋

山梨県立科学館では，実験教室などのお手伝いをしていただけるボランティアを募集しています。サイエンスに興味のある人はもちろん，子どもが好きな人，教育活動をしてみたい人など，どなたでも大歓迎です。サイエンスに詳しくなくても大丈夫。学校の先生以外の教育職として，科学館職員の仕事に触れてみて新しい発見をしてみませんか？

[活動内容]

実験工作教室などにおける材料の準備や参加者の体験補助，常設展示における展示体験補助など。

[活動場所]

科学館内，科学館周辺の屋外，県内の教育・文化施設など。

[活動時間]

9:00～17:00 のうち，4 時間以上（休憩あり）

[その他]

1. 活動にあたり必要な知識や技能などを習得するための研修を実施しますのでご安心ください。
2. 名札やベストを貸与します。

附属小学校における教育ボランティアの様子

山梨大学教育学部附属小学校
教諭　太田　　圭

本年度は２３名の方にボランティアとして参加していただきました。活動内容としては，主に授業の指導補助，下校指導です。

大勢の方にご参加いただいたので，配属学年を決めてボランティア活動を行いました。配属先を決めたことで，より一層子供たちの実態に合わせて声かけをしたり，指導補助をしたりときめ細かな活動をしていただきました。活動範囲が広がり，教師の目の届きにくくなりやすい時にボランティアの皆さんの支援があり，とてもありがたかったです。また，学校行事の準備など運営面のお手伝いもしていただきました。子供たちとは直接関わらない仕事もありましたが，見えないところで準備等が子供たちの充実した活動につながります。力を貸していただき，とても助かりました。本当にありがとうございました。

現場だからこそ学べること，感じられることがあると思います。ボランティアに参加した経験が皆さんの糧となれば幸いです。現場の教師からすると，授業中に支援してくれる人が教室にいるということは大変ありがたく，心強いことです。そして，支援してくれる人がいることが学習指導や安全面の充実につながります。職員の一員として活動してくださったボランティアの皆さんに感謝いたします。

今後も，現場にとって，そして学生の皆さんにとって充実したボランティア活動となるように考えていきますので，これからも是非，ボランティアに参加をしていただければと思います。

「新たな発見盛りだくさん」

山梨大学教育学部附属中学校
教諭　奥田　陽介

本校は，山梨大学教育学部の附属学校として，毎年多くの教育実習生を受け入れ，授業や部活動，学園祭等の活動を生徒とともにつくってきました。教育ボランティアに関しても部活動を中心に受け入れ，学生の皆さんがこれまで培ってきた技術や競技に対する熱い思いを生徒に伝えていただいています。部活動は，教育課程外ではありますが，中学校の教育活動を支える大切な活動のひとつです。本校には，高いレベルでの文武両道を目指している生徒が多くいます。中学校（高等学校）の教員志望の学生の皆さんは，是非申し込んでいただければと思います。受け入れ可能な部活動は，野球部・サッカー部・ソフトテニス部（男女）・陸上部・バレーボール部（女）・バスケットボール部（男女）・卓球部（男女）・剣道部・吹奏楽部・科学部・美術部です。

昨年度からは教科の学習支援に関しても，授業担当教師の補助として教育ボランティアを受け入れています。「個別最適な学び」や「協働的な学び」「複線型授業」のように現在の教育現場は「一人ひとりの学び」や「他者との関わりから生まれる学び」を大切にしています。そのような中で，学生の皆さんには授業担当教師の補助として授業に参加していただき，時には生徒の学びを見守り，時には生徒の学びを導く役目を担っていただくなど，生徒にとって大きな支えとなっていただきました。

学生の皆さんにとっても，中学生の考えや中学校教師の授業方法，GIGA スクール構想の進展などを直に感じることができるよい機会になると思います。

皆さんがこれまで経験してきたこと，一生懸命に取り組んできたことを中学生に伝えてみませんか。生徒とともに学び，生徒とともに汗をかくことで，新たな発見があると思います！！

「幼稚園のボランティア活動」

山梨大学教育学部附属幼稚園
幼稚園教諭　泉　紗恵

1.　ボランティアの活動内容

（1）　幼稚園行事の準備，補助

運動会，遠足，公開研究会，発表会などの行事の際の準備や保育補助をしていただいています。運動会や発表会では，当日の会場設定の補助，実施中の子どもの補助や用具の準備，終了後の片付けなどをしていただいています。遠足では，園外での園児の安全確保など，園児と一緒に行事を楽しみながら活動していただいています。

（2）地域とつながった行事の準備，補助

地域の未就園児とその保護者が参加する行事において，園の案内や環境整備などの職員のサポートをしていただいています。

2.　学生の皆さまへ

ボランティアの学生の皆さまのご協力，毎年感謝いたします。幼稚園で経験した子どもたちのおもしろい発見や気付きを通して，少しでも幼稚園の現場が楽しいと感じていただけていれば幸いです。これからもぜひ，参加していただければと思っています。

「山梨大学附属図書館子ども図書室学生ボランティア活動」

山梨大学子ども図書室専門委員会

「山梨大学附属図書館子ども図書室」は，4，600 冊以上の絵本・児童書を配架する親子で読書を楽しめるスペースです。2022 年 5 月には開室 20 周年を迎えました。学生ボランティアの主な活動は，週 3 回の「子ども図書室」の開室（月・水・土曜日の 13:00～16:00）と季節のイベントの開催です。昨年度は新型コロナウィルス感染拡大防止のため，開室日を減らし，感染対策を徹底して安全な運営を心がけました。今年度から感染予防をしながら，少しずつ対面でのイベントも再開し，12 月にはクリスマス会を開催し，また 1 月にはさわる絵本の読み聞かせ会などをすることができました。

「子ども図書室」のすばらしいところは，リーダーを中心に，学生ボランティアが年度の方針・活動内容を決めていることです。開室は，月末に担当可能日を報告しあってシフトを組んでいます。授業などの自分の都合に合わせて参加できますが，小さな子どもたちを対象とした活動を学生が力を合わせて行っていますので，責任感を持って参加することが大切なこととなってきます。授業で学んだ知識を活動に活かすこともでき，就学前後の子どもたちの自然な姿や親子の関わりを見たり，工夫を凝らしながら，ICT を活用した子育て支援を検討したりするなど，授業では学べない多くのことを得る良い機会となります。これからも，学生のみなさんの積極的な参加によって，学生主体の他には類を見ない「子ども図書室」の活動が，より充実していくことを期待しています。

令和５年度　教育ボランティア学生運営委員から

学生運営委員長　科学教育コース　３年　村田　実希

今年度の学生運営委員会は１年生４名、２年生７名、３年生８名の計１９名で活動を行ってきました。皆さま、スタートセミナーやガイダンス、報告会など様々な会にご参加いただき、ありがとうございました。

それぞれの活動を通して、大学の講義とはまた一味違う学びを得られたのではないでしょうか。嬉しかったことや楽しかったことがある一方で、どう声掛けをしたらいいのかわからない、注意の仕方がわからないなどの悩みや課題もあったと思います。しかし、その課題について考えを深め、次の教育ボランティアや教育実習で活かすことで自分の成長へと繋げていけることも教育ボランティアの魅力であると感じています。

来年度以降も皆さまの教育ボランティアがより充実したものになるよう、委員一同活動していきますので、よろしくお願いいたします。

生活社会教育コース　２年　中平　渚紗

教育ボランティア委員会に所属したことにより、コースが異なる先輩や後輩とも会話をする機会が増えました。委員会のメンバーの中には、日々の授業や教育ボランティアに積極的に取り組んでいる学生が多いため、互いの悩みを聞き合ったり、情報共有をし合ったりすることができ、個々の活動に非常に役に立ちます。委員会の活動は、メンバーで分担をして行うため、負担になることはありませんが、達成感を得ることができます。ボランティア委員会に所属して、自身のコミュニティを広げませんか？メンバー一同お待ちしております。

科学教育コース　１年　古屋　祥汰

教育ボランティアの活動では、実際の学校の雰囲気を感じることができました。授業としての実習に比べ、普段の学校の雰囲気のまま活動することができます。また、実際に教育実習が始まる３年次の前、１年生のうちから学校現場を経験できることも大きな魅力です。来年度もボランティアに参加し、多くの経験を積みたいと考えています。

教育ボランティア学生運営委員として活動して、教育ボランティアの活動をしたいろいろな人の話を聞くと、それぞれの人がそれぞれの活動場所で違った経験をしていることがわかりました。運営に参加したことで、教員採用試験に向けたアピールポイント、学級運営につながる運営経験、たくさんの人のボランティア経験談などいろいろなものを得られたと感じています。みなさんも、運営に参加して私たちと活動しませんか？。

教育ボランティアだより

No.35

～子どもの成長にかかわりたい～

2024年1月10日　　教育ボランティア委員会

南アルプス市立豊小学校・・・１２月１日（金）訪問

訪問者：田中健史朗

南アルプス市立豊小学校は、児童数は約 250 名（学級数 10）であり、地域全体で児童を支える教育環境が整っている学校です。そのため、地域の方のご指導のもと、切子や養蚕に取り組む教育活動があります。「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」をバランスよく育むことに取り組みながら、何より児童が「明日も学校に来たい」と思えるような学校づくりに取り組んでいる小学校です。

豊小学校の卒業生でもある幼小発達教育コースの山本萌夏さんが教育ボランティア活動していました。校長先生である井上武人先生は当時担任の先生だったそうです。教育ボランティア活動では、授業の補助を行っており、児童の個別学習サポートを丁寧に行っていました。休み時間も児童との交流を行っており、「学びが多く、このような環境で学校の先生がやりたい！」という山本さんの言葉が印象的でした。

当日はお忙しいところをご対応くださった校長の井上武人先生に心より感謝申し上げます。

学習支援する山本さんの様子

【教育ボランティア学生へのインタビュー】

「教育実習の前と後での違い」

視野を広くもって子どもと関われるようになりました。そのため、授業者の先生の意図を考えながら声かけするようになったり、消極的な児童にも目を向けられるようになったりしました。

「教職を目指す気持ちの変化」

先生ってすごいな、すてきだなと思いました。それは授業だけでなく、クラス経営も含めて、工夫がいっぱいであり、自分も教師として子どもたちとのその時間を過ごしたいと思うようになりました。

「教育ボランティアをやってよかったと思うこと」

現場でリアルな子どもや子ども同士の関わりを知ることができたのが良かったです。教育実習とは違い、自分で考えて動いたり、視野を広げたりして、教師や子どもたちを観察することができることが成果になりました。

【井上校長先生へのインタビュー】

教育ボランティアの学生を受け入れるようになり、教職員が児童一人ひとりの理解度や課題に合わせて、きめ細やかな指導を行うことができるようになりました。また、学生さんは、豊小学校の出身であるため、児童にとって将来のモデルとなっていることも大きな成果です。休み時間など、児童が学生さんに声をかけ、一緒に遊んでいる姿が見られ、児童の活動が活性化したと感じています。

教育ボランティアの学生さんには、児童との関わりを通して、教員という素晴らしい職業の魅力に気づいてほしいと思います。また、児童にとっても、大学生と交流することで将来の目標をもてるきっかけになると期待しています。

教育ボランティア活動を受け入れ，様々なご配慮をいただいている豊小学校の先生方に感謝申し上げます。

教育ボランティアだより No.36

～外国人の子どもの教育と関わる～

2024年1月10日　教育ボランティア委員会

中央市立田富小学校・・・１２月１８日（月）訪問

訪問者：仲本康一郎

田富小学校は、明治５年に開校し、創立 144 年という長い歴史を持つ学校です。現在、18 学級、347 名の児童が学んでいます。田富小学校は、山梨県下でも外国人が多く住む外国人集住地域にあり、おもに南米日系人の子どもたちが大勢学ぶ国際色豊かな開かれた学校です。

田富小学校は、外国人児童生徒教育の充実を掲げ、山梨県下でも先進的な日本語指導を行っている拠点校です。今回は、田富小学校の「日本語教室」にお邪魔してきました！

幼少発達教育コースの佐藤紗也香さんに聞いてみました！

田富小学校

Q1. 教育ボランティア活動をしようと思ったきっかけは何ですか？

日本語教育に興味があって、外国籍児童が多く学んでいる田富小学校で、外国人の子どもの学びの現場をみてみたいと思ったことです。

Q2. 今回の教育ボランティア活動で気づいたことは何ですか？

日本語が分からない子どもに、日本語で説明することの難しさを感じました。例えば、算数の「帯分数」の説明に苦労しましたが、やさしい日本語で説明する力は、これから日本人の子どもを教えるときも役立つと思います。

Q3. ボランティア活動をした田富小学校はどうでしたか？

学校全体が外国人の子どもたちを温かく迎える雰囲気があって、日本語指導の先生方だけでなく、校長先生も教頭先生も、在籍学級の先生方もみんなで子どもたちを育てていこうとしていました。日本人の子どもたちも外国人のこどもたちとあたりまえのように仲良く学んでいる姿が印象的でした。

学びを支援する佐藤さん

Q4. 日本語教室での指導の様子はどうでしたか？

外国人の子どもたち一人一人の個別の指導計画をたてて授業をしていることがわかりました。子どもたちの日本語のレベルはみんな違うし、他にも書くことは得意でも話すことは苦手な子どももいて、そんな児童には日本語教室でたくさん話す機会をつくってあげていました。

Q5. 教育ボランティア活動をはじめようと考えている学生へのアドバイス

１年生のときは問題意識もなくボランティアを始めましたが、２年生以降からは目標をもって学校を選びました。日々の活動では、子どもと積極的に話すとか、小さなことでもいいので何か目標をもって活動するといいと思います。

佐野　希（さの　のぞむ）教頭先生のお話

教育ボランティアの学生が来てくれて、本当に助かっています。私たちが目の届かない子どもたちにも目をかけてもらえるし、子どもの目線に近い学生の皆さんには、子どもたちも積極的に関わろうとし、ふだん私たちには話してくれないようなこともお話するようです。

外国人の子どもの教育に関わらず、もちろんそうしたことを学ぶには最適な学校ですが、いろいろな学生さんに本校に来てほしいと思います。教職志望の学生の皆さんには、本校で教育への肯定的イメージを育てていってもらえればと願っています。

山梨大学の教育ボランティア学生を温かく迎えてくださる田富小学校のすべての先生方に感謝申し上げます。

2023 年　4 月　12 日

令和5年度教育ボランティアスタートセミナー

4 月 12 日に、令和 5 年度教育ボランティアスタートセミナーが開催されました。このセミナーでは運営委員代表からの話や、グループ協議、そして甲斐市立玉幡小学校の久保田勲教頭先生からの話があり、「教育ボランティアとはどういうものだろうか？」という疑問や不安を解消するためのセミナーとして行われました。本通信では、それらの様子について報告させていただきます。

まずはグループで協議をし、その内容を報告しあいました。グループ協議では主に各コースに分かれ教育ボランティアの経験者の先輩方から、教育ボランティアについての体験談や活動についての疑問をお聞きしたりしました。具体的には、活動先のお話や、どんな活動をするのか、どういったことに気を付ける必要があるのかなどについて話し合いました。初めての教育ボランティアでどうしたらいいかわからないことが多い新入生たちがほとんどでしたが、先輩方の話を聞くことで活動に対する見通しなどが持てるようになったと思います。参加した方の感想では、「活動に対するハードルが下がったので、参加してみたい意欲が増えた」という意見や「実際に行った先輩方の話を聞いて教育ボランティアのイメージをつかむことが出来た」「質問もしやすい雰囲気で有意義な時間を過ごせた」などの意見がありました。

協議の後は受け入れ先の先生である玉幡小学校の久保田先生から、教育ボランティアをするメリットや、教育実習と教育ボランティアの違いなどについてお話していただきました。教育ボランティアは教育実習とは異なり、教育現場で職員の一員として経験を積むことが出来る。それはよりリアルな教育現場を体験することであり、教育ボランティアに参加する意義だということや、教育ボランティアには積極性がとても重要であるという、活動するにあたっての心構えなどについてもお話していただきました。

今回のセミナーでは、一年生をはじめとし多くの学生が参加し、とても充実したセミナーとなりました。このセミナーをきっかけに、多くの学生が教育ボランティアに積極的に参加していただけると嬉しいです。

教育ボランティア学生運営委員会

教育ボランティア通信 No. 51

Ｒ５前期教育ボランティアガイダンスが開催されました！

4 月 19 日に N-11、N-12 の教室にて前期教育ボランティアガイダンスが開催されました。今回のガイダンスは 3 年ぶりに受入先の先生にお越しいただいたこと、また多くの学生が参加してくれたこともあり大盛況でした。1～4 年生が一堂に会するイベントはあまりないので、その点でも貴重な場だったのではないでしょうか。初めて教育ボランティアに参加する学生も多いので、不安や心配をなくし、希望を持ってボランティアに臨めるよう丁寧な説明がなされました。学生の皆さんも集中して意欲的に話を聞いていました。

＜教育学部長･教育ボランティア委員長から＞

服部学部長からは教育ボランティアを行う上での 2 つの願いをお聞きしました。**①学生本人が教育ボランティア活動を楽しむ　②活動しながらいろいろなことを観察しさまざまな気付きを得る**、この 2 つを通して、自分にとってどういう意味があるのかを感じ、自分自身の成長につなげてほしいとのお言葉がありました。

志村教育ボランティア委員長からは、「教員となる前に教育現場に立つ機会は、『教育実習』とこの『教育ボランティア』の２つであるので、とても大切な経験になる。活動内容も活動地域もさまざまなので、ぜひいろいろなところで積極的に主体的にかかわってほしい。ただなんとなく参加するだけではなく、貴重な経験を財産として積み重ねていってほしい」という話がありました。

＜学生運営委員会委員長から＞

田村学生運営委員長からは、「受入先の先生が『教育ボランティアは筋書きのないドラマだ』とおっしゃっていました。ここにいるみなさんにはぜひ教育ボランティアに参加していただき、学校現場にいかなければ得られない知識や学びを経験してほしいと思います。」とのあいさつがありました。

他には、地域学習アシスト事業やボランティア活動の概略、留意事項、事務手続きについて説明が行われました。

「教育ボランティアに参加してみたいけど迷っている」「教育現場についても分からないことだらけ」「活動への勇気が出ない」など教育ボランティアの参加を迷っている方、ぜひ後期（10 月）にもガイダンスがありますので参加してください。私たち学生運営委員も疑問・質問にお答えします！！！

後期教育ボランティアガイダンスが開催されました！

１０月４日（水）に後期教育ボランティアガイダンスが行われました。
今回の後期ガイダンスも多くの学生の参加がありました。教育ボランティア活動は実際の教育現場で様々なことを学び経験できる貴重な機会になります。今年度は新型コロナウイルスの影響も徐々に落ち着き、より充実した活動を行うことができます。受け入れ先の方をはじめ多くの方々のご協力で活動を行うことができていることに感謝しながら積極的な活動を行っていきましょう！

M –11 教室は１・２年生、M- 12 教室は３・４年生の会場でした。学生たちがそれぞれの思いを胸に真剣に話を聞く様子が見られました。

今年度は新型コロナウイルスが落ち着いたため、受け入れ先の方々に来ていただき直接お話をしていただきました。

全体会終了後、それぞれのブースに分かれ、自分の希望の受け入れ先の方々に詳しいお話をしていただいたり、質問したりすることができました。

〇教育ボランティア学生運営委員会より
教育ボランティア活動は、教育実習以外で実際の学校現場に触れることのない学生にとってとても貴重な機会です！この活動を通して学びを深めたくさんの経験を積めるように積極的な活動を行っていきましょう！
また、私たちと一緒に教育ボランティアの企画運営をしてみませんか？学生運営委員募集中です！！

教育ボランティア報告会が行われました！

教育ボランティア通信 No.53

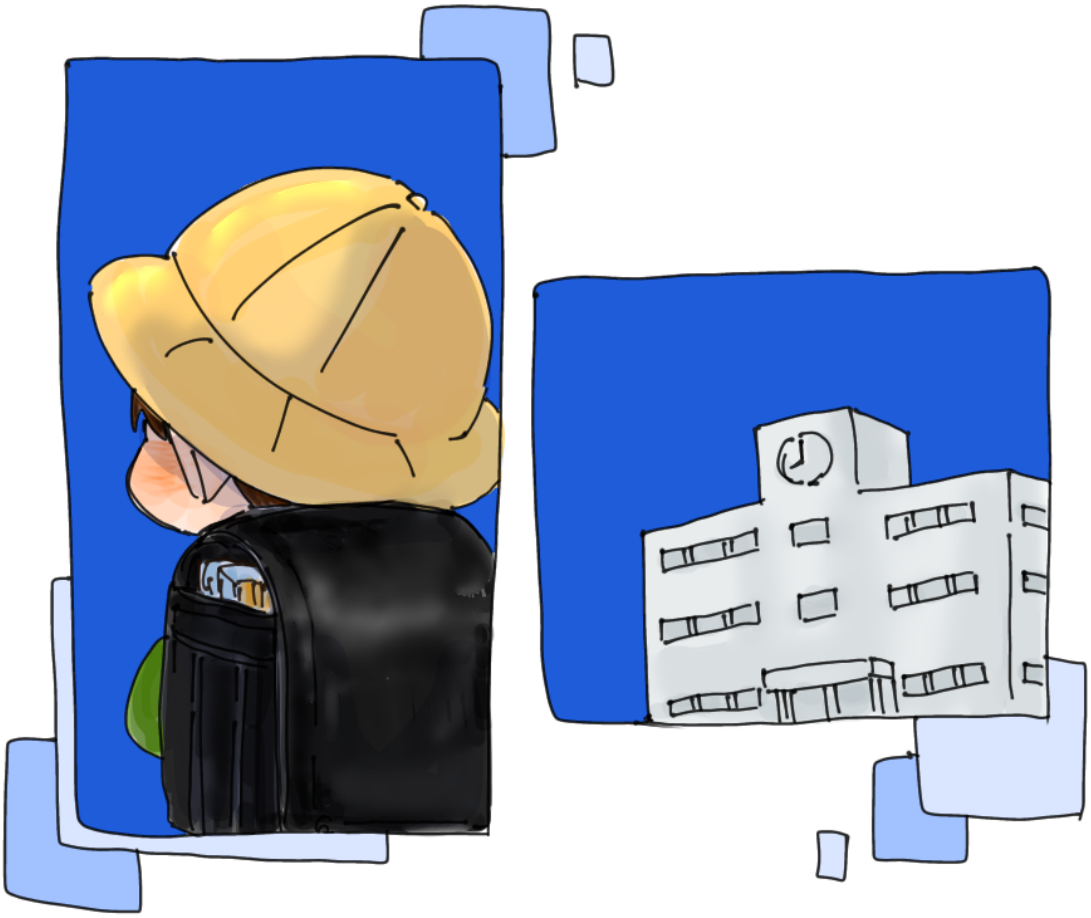
12 月 6 日(水)の 4 限目に N-11,12 教室で教育ボランティア報告会が行われました。多くの学生が参加し、活発な意見の出るとても有意義な会となりました。報告会前半では学生運営委員長の村田実希さん、教育ボランティア委員会委員長の志村結美先生、からお話しをいただいた後、科学教育コース 4 年の井口雄月さんから教育ボランティアの体験発表をしていただきました。

教育ボランティア体験発表の様子

後半には校種ごとランダムに割り振られたグループで、「教育ボランティアで学んだこと」というテーマに基づいてディスカッションを行いました。各学年が入り混じっての討論であったためそれぞれの着目する視点や得られた経験が異なり、悩んだことに対して教育実習を終えた先輩からアドバイスを受けている姿も見られました。協議内容としては「低学年と高学年で声掛けに差があることの難しさ」など、多くのグループに児童・生徒への声掛けに関しての記述があったことが印象的でした。

また「教室にとどまることが難しい生徒の対応」や「生徒にとっての困難さとその支援」など、実際の教育現場でしか得ることのできない経験をしたという記述が多数あり、教育ボランティアのもつ価値の大きさを感じた人も多かったのではないでしょうか。

大学で学んだことが現場で通用するとは限りません。完璧に実践できる人はいません。だからこそ実際に働かれている大先輩方を間近で見させていただきながら、自身をスキルアップしていく必要があるのです。教育ボランティアは大学時代に経験できるその数少ない絶好の機会と言えます。この経験を糧とし、教育者としてさらなる成長ができるよう普段の精進を重ねていきましょう！



山梨大学教育学部
附属教育実践総合センター
教職支援室

制作デザイン
芸術身体教育コース
河合なるみ